

サンロケダム影響調査報告書

Social Impact Assessment of San Roque Multipurpose Dam Project

栗田 英幸
Hideyuki KURITA

《要約》

本調査報告書は、被害の状況、構造的要因、それらの動態的变化を浮き彫りにすることにより、1) 適切な主体による適切な対処を促すこと、2) 理論および実践における新たな視点を提示すること、3) 今後の実施を期待している包括的な調査への必要な視点と情報を準備することを目的としている。

調査結果は、プロジェクトで想定されていたよりも広範に深刻な被害が広がっていること、その被害が補償によって克服されていないことを明らかにしている。そして、この被害は、個々の被害対象者のみにとどまらず、コミュニティ全体のリスク克服および機会獲得のための機能をも著しく低下させている。

そのような状況を引き起こした要因は、1) 単純化された生活手段の評価、2) 実勢に合わない評価額、3) 信頼関係、透明性、エンパワーメント、将来的な利益予測や情報の共有等を通じた参加意欲創出およびモラルハザード防止のためのインセンティブの構築失敗、4) 不十分な苦情処理ルートおよびその帰結である。そして、それらはパトロン・クライアント関係の下でのローカルエリートによる介入という社会構造によって支えられている。

被害を改善するためには、パトロン・クライアント関係に組み込まれたローカルエリートによる介入を極力排除し、これまで無視もしくは軽視されてきた批判勢力としての住民組織、NGOを積極的に取り入れ、従来と異なる情報伝達および対話のための効果的なルートを構築し、信頼関係を構築する必要がある。

はじめに

筆者は、1996年3月に現地 NGO から見学を依頼されてから2004年3月の調査に至るまで¹、サンロケ多目的ダム（以下、サンロケダム）プロジェクトに関わってきた。本報告書は、筆者の8年以上にわたる調査の成果をまとめたものである。個人的な調査であり毎回の訪問期間も限られていた

ことからデータ、サンプル数に大きな制限のあること、後述するように特殊な社会的構造故にバランスのとれた調査対象の選択ができなかったこと、生計手段創出プロジェクトが未だ継続中であることから、全体像を掴むには至っていない。特に、このプロジェクトによって利益を受けた世帯に対する認識は甚だ不十分であり、コスト-ベネフィットによってプロジェクトの全体を評価することも不可能である²。しかし、被害については、その特徴にとどまらず、その構造的要因および動態的な変化を把握するのに必要最低限以上の調査ができていないと自負もしている。特に、ここで描き出

¹ 本稿の掲載される冊子は、2003年度発行となっているが、諸処の事情により印刷が延期されていたことから、2004年3月の調査結果も新たに付け加えている。

表1. 調査スケジュールおよびアンケート対象

表1-A. 調査の日程と対象

調査年	月	調査地
1996	3	イトゴン
	7	イトゴン
1997	3	イトゴン
1998	10	サンマニエル サンニコラス イトゴン
		イトゴン
2000	3	イトゴン
2001	9	イトゴン サンニコラス サンマニエル
		イトゴン
2002	3	サンニコラス サンマニエル イトゴン
	9	サンニコラス サンマニエル
2003	3	サンニコラス サンマニエル イトゴン
	9	サンニコラス サンマニエル イトゴン
2004	3	サンニコラス サンマニエル イトゴン

表1-C. ラグバン移転地における合意アンケート
およびヒアリング調査対象と世帯数

2001年9月7-9日	アンケート調査	11
9日	ヒアリング調査	5

表1-B. 生活手段および借金の変化に関する調査対象

	全世帯数	アンケート対象				計
		2002年		2003年		
		3月	9月	3月	9月	
Municipality of San Nicolas	6,533					
Cabuloan	167	7	2	5		14
Dalumpinas	281				5	5
San Felipe East	479	3	1		7	11
San Felipe West	194	6				6
Lagpan Resettlement Site	43	8	2	3		13
Salpad	99				5	5
San Isidro	152		1		12	13
San Rafael West	239		3			3
Sto. Tomas	118					2
Bensican	127	2		9		9
Municipality of San Manuel	6,455					
Narra	533	8	19		2	29
San Roque	561	2			21	23
Kamangaan Resettlement Site	183	4	9			13
San Bonifacio	462	3				3
計		43	37	17	52	149

注: 全世帯数の数値は2000年の値
by NSO Census of Population and Housing:1990

表1-D. ネットワークに関するアンケート調査対象

Cabuloan in San Nicolas	7
Lagpan in San Nicolas	5
San Felipe East in San Nicolas	1
Bensican in San Nicolas	9
2003年3月調査	

される構造的要因および動態的变化は、本プロジェクトのみならず、他の開発プロジェクト、特に大規模プロジェクトに対して大いに当てはまるものであり、これまで軽視されてきたが故にプロジェクトに混乱を引き起こしていた理由の幾分かを説明することとなろう。本報告書は、被害の状況、構造的要因、それらの動態的变化を浮き彫りにすることにより、1) 適切な主体による適切な対処を促すこと、2) 理論および実践における新たな視点を提示すること、3) 今後の実施を期待している包括的な調査への必要な視点と情報を準備することを目的としている。

2 この評価方法自身が決定的な問題を含んでいるため、プロジェクト評価を決定的に左右することがあってはいけない。特にフィリピンのエリート層において、ある程度の犠牲は全体の利益のためにやむを得ないとの考え方が強く、そのことが被害の軽視を助長している。

1. 調査スケジュール

サンロケダムについての調査日程およびアンケート実施対象は表1の通り。

2. サンロケダム

2-1. 概要

サンロケダムは、ルソン島中北部を流れるアグノ川に建設されており、貯水池は上流部のベンゲット州と下流部のパンガシナン州にまたがって広がっている(図1)。発電345メガワット、灌漑8万7千ヘクタール、上流部の鉱山操業による水質汚染の改善、洪水制御を主な目的とした多目的ダムであり、堤高190メートル、堰堤長1.1キロメートル、貯水量8万5千立法キロメートルを有する東南アジア最大級の規模を誇る(図2)。

サンロケダムは、上記目的の達成に加えて、間接的な利益としての新規産業の導入、在来産業の活性化、税収向上を通じた地方経済の発展と地域

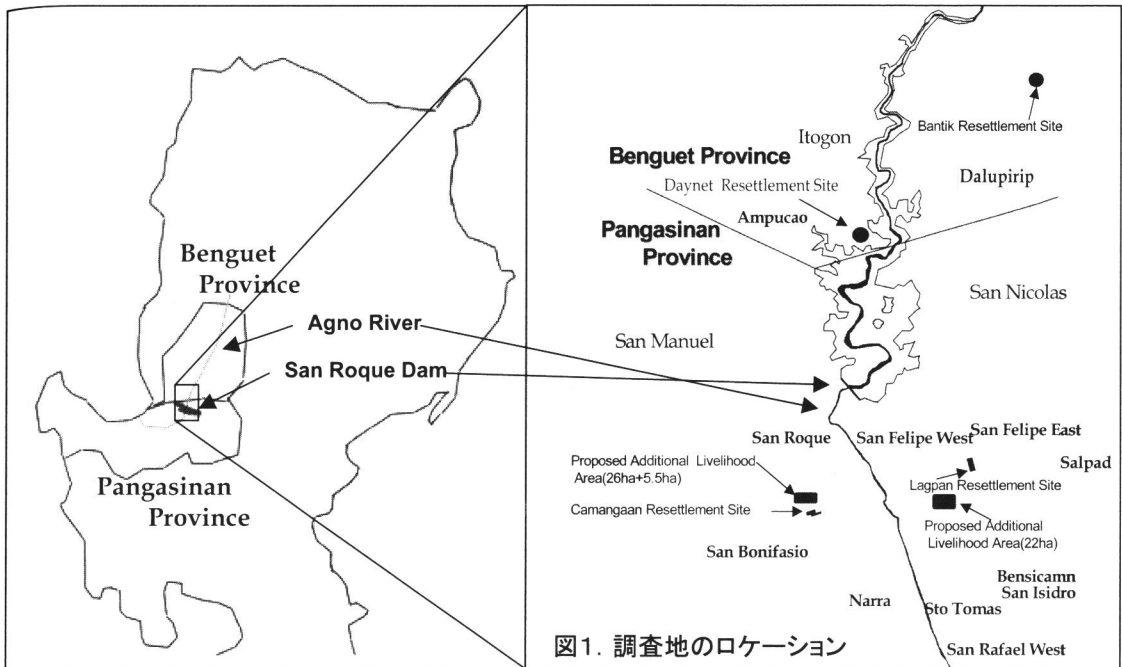


図1. 調査地のロケーション



図2 サンロケダム

住民の生活向上³、そして何よりも被害住民への十分な補償および正当な手段による手続きとしての Right of Way (RoW) をプロジェクト正当化の根拠として位置づけている。

被害地域として認定されているのは、表2の通り。また、生活手段を喪失する世帯に優先的に提供される生活手段創出プロジェクト（以下、LP）は表3の通り。

2-2. 経緯

サンロケダムの建設計画は、1974年に立案されている。環境影響評価（EIA）は、1984年に一度提出され、その翌年に政府から環境保証証明書（ECC）が発行された。その後、政治経済的混乱によりプロジェクトは頓挫し続けたが、政治経済が安定して経済成長への期待が高まってきた1995年にプロジェクトの再開が宣言された。1997年に新たに修正 EIA が提出され、再び新たな ECC が1998年に発行された。同時に本格的な工事も着工され⁴、工事の進捗状況に応じて生じる住民への影響に対して補償も開始される。

1995年にプロジェクト再開が決定されると、被影響地域への説明と合意形成が積極的に展開される。プロジェクト実施主体の NPC のみならず、ラモス大統領までもが直接現地入りし、住民への協力を呼びかけた。1996年に下流部の被害地方自治体との間で MOA が結ばれ、翌年3月に上流部

³ これら間接的利益については、長期的な視点が必要であり、現時点で評価することはできない。

⁴ ECC 発行の前になるが、既に1997年5月にダムサイト予定地にてラモス大統領出席の下で土地割りの儀式（Land breaking ceremony）が行われている。

⁵ 市町の下に位置する最小行政単位。

表2. プロジェクトで認識されている非影響地域

プロジェクト構成	被影響バランガイ	町
発電施設	San Felipe West	SN
囲い堰	San Roque	SM
	San Felipe West	SN
	San Roque	SM
ダム	San Felipe West	SN
	San Roque	SM
職員居住地	San Roque	SM
貯水池	San Roque	SM
	San Felipe West	SN
	San Felipe East	SN
	Ampucac	IT
	Dalupirip	IT
調整池	San Roque	SM
アクセス道路	San Roque	SM
	Narra	SM
	San Felipe West	SN
移転地	San Roque	SM
	San Felipe West	SN
採石地	Narra	SM

注: SNはサンニコラス町、SMはサンマニエル町、
ITはイトゴン町を示す

出典: Update to the 1984 EIA for the San Roque
Multipurpose Project

表3. 新生活手段創出プロジェクト

受入組織(組合)	プロジェクト
サンマニエル	
San Roque Rang-ay Association	cattle raising/financing quail egg production
Dinnanggayan Association	tricycles operation / hog & livestock raising and quail egg production
Timpuyog Association	financing
28th Damsite Livelihood Association	financing
Sto. Domingo Multipurpose Cooperative	cattle raising
サンニコラス	
Bulangit Resettlement Kapitbisig Association	cattle fattening
Cultural Community Association	broom making & vegetable gardening
San Nicolas Marketside Stallowners	financing
San Nicolas Federation of Rural Improvement Club Livelihood Association, Inc.	financing
Masakbayan Pilipinas 2000 Association	livestock raising
San Nicolas Federation of Tricycle Operations and Drivers Association, Inc.	tricycle operation
Alola-San Roque Livelihood Association, Inc.	hog raising
Dalumpinas Livelihood Association, Inc.	hog raising
San Nicolas High School PTA Association, Inc.	financing
San Nicolas Teachers Association	financing
イトゴン	
Ampucac Ladies Circle	general sewing
Palunupon Gold Planners & Private Miners Organizati	cattle fattening/raising
Selected Residents of Barangay Ampucac	goldsmithing training
Barangay Dalupirip	cattle dispersal, farm & irrigation equipment
Barangay Ampucac	irrigation equipment
Barangay Poblacion	cattle dispersal, farm & irrigation equipment
Barangay Tinongdan	cattle dispersal, farm & irrigation equipment
WNB Small Scale Jewelry Association, Inc.	goldsmithing
Purok Kaunlaran 745 Association	hog fattening
Tapsan Multipurpose Cooperative	cooperative store
Tayum Livelihood Association	cattle raising
Tayum Livelihood Association	gold trading
Selected Residents	band training

資料: Project Summary Status Report as of June 25, 2002

表4. プロジェクト経緯

年	月	出来事
1975		サンロケ多目的ダムプロジェクト立案
1979		フィージビリティ調査
1983	7	EIA作成のための調査開始
1984	5	EIA提出
1985	11	ECC発行
1995	2	プロジェクト再開通知
	2	合意形成開始
	6	ECC修正のための調査開始
1996	12	下流部全てのLGUとMOAを締結
1997	3	ダルビリップ、アンブカオの承認
	4	DENR、修正EIAの承認
	5	入札において丸紅他が発電部門の落札 土地割りの儀式
1998	2	修正ECC発行(26項目の追加条項) 本格的な建設の開始 仮移転地の建設と移転
1999		カマンガアン移転地の完成と移転の開始
2000		ラグパン移転地の完成と移転の開始
2002	8	貯水開始
2003	5	商業運転開始
2004	1	イトゴン町での2移転サイトが決定
	4	イトゴン町2移転サイトの土地割り儀式

表5. 地方自治体の合意

年	月/日	出来事
1995	3月14日	ナラのBaronage CouncilがSRMP承認決議(決議95-4)
	3月15日	サンマニュエル町議会がSRMP承認決議(決議95-12)
	3月17日	サンロケがSRMP承認決議(決議95-13)
	4月14日	サンフェリペ・ウエストがSRMP承認決議(決議95-2)
	6月12日	ダルビリップとティノンダンの住民代表が大統領にプロジェクト撤回の要望書提出
1996	2月18日	ラモス大統領がイトゴン訪問し、協議会を開催。 住民や政治家等が反対を表明
	3月12日	アンブカオ、ダルビリップ、ティノンダン、ポブラシオンの住民組織がダム反対のポジションペーパーを提出
	7月15日	サンマニュエル地区のTeachers ClubによるSRMP承認
	8月6日	サンマニュエル町のコミュナル灌漑組合によるSRMP承認
	11月15日	州開発委員(リンガエン)によるSRMP承認(Execom Res.96-09)
	11月18日	サンニコラス町のバランガイ委員委員会(ABC)によるSRMP承認 (Resolution96-22)
	11月20日	ラウニオン地域開発第一地区委員会によるSRMP承認 (Resolution95-89)
1997	12月26日	パンガシナンサイドのLGU全てと交渉終了し、MOAを結ぶ
	2月5日	イトゴン議会、議決5の決議: イトゴンへの社会影響調査と議会による合意取得要求(この議決をNPCは事実上のプロジェクト承認と誤認)
	3月16日	ダルビリップとアンブカオでバランガイ委員を通してプロジェクト同意が 議決(住民には知らせず)
	7月16日	イトゴン町議会は議決109を採択: ECC承認のための条件を提示
	9月2日	ベンゲット州議会において、イトゴン町の議決109を可決
1998	12月22日	ベンゲット州議会において、議決1071採択(イトゴン議決109承認)
	6月22日	議決109への対応としての1985年ECCの追加条件がイトゴン町 へ送付される(後に不十分とのコメント)
1999	1月22日	イトゴン町がプロジェクトに合意
2000	9月13日	イトゴン町議会においてプロジェクト支持を撤回する決議を可決 町長が拒否権発動
	10月17日	サンニコラス町議会においてプロジェクト支持を撤回する決議を可決 町長が拒否権発動
2001	1月	イトゴン町議会においてプロジェクト支持撤回の決議を再度可決
2003	3月14日	イトゴン町が再びサンロケダム事業への承認撤回の決議
	4月26日	ラモス元大統領とイトゴン住民との対話集会

の被害地であるダルピリップ、アンブカオの2バランガイ⁵のバランガイキャプテンがプロジェクトの同意にサインを行った。これを受け、DENRは4月に修正 EIA を承認、5月に建設開始としての土地割りの儀式がプロジェクトサイトで執り行われ、同時に補償および地域活性化プロジェクトが次々と実施される。本格的な建設の開始は1998年2月に開始されるが、移転地の完成が遅れていたため、まず仮設移転地への移転が行われた。1999年9月に主にサンマニエル町からの移転者のための移転施設カマンガアン移転サイト (Kamangaan Resettlement Site) において住民の受入れ準備が整い、同時に移転が開始された。2001年5月にはサンニコラス町からの移転者を対象としたラグパン移転サイト (Lagpan Resettlement Site) も住民受入れ準備が整い、移転が開始された。一方、上流部のイトゴン町からの移転者を対象とした移転サイトについても、2004年に入ってイトゴン町アムブカオのダイネット (Dynet Resettlement Site) と同町ダルピリップのバンティック (Bantik Resettlement Site) により決定、一部の世帯が既に移転し始めている。

ダム本体の施設は既に完成し、貯水も2002年8月より、商業運転は翌年5月より開始された。

3. 合意形成

3-1. 地方自治体レベル

合意は大きく2つのレベルに分けて論じなければならない。その第一は、地方自治体レベルにおける合意である。フィリピンの地方自治法 (Local Government Code) では、ダムのような大規模プロジェクトにおいて、被影響地を有する地方政府のプロジェクト承認が不可欠の条件として規定されている。ここで承認の根拠とされているのは、1996年12月26日にケソン市において行われた MOA であり、被害対象の地方政府のリーダーとして、パンガシナン州からは、パンガシナン州知事、パンガシナン州プロジェクト地区選出国會議員、サンニコラス町長、サンマニエル町長、

サンロケ、ナラ、サンフェリペ・イースト、サンフェリペ・ウェストそれぞれのバランガイキャプテン、ベンゲット州からはベンゲット州プロジェクト地区選出国會議員、イトゴン町長、アンブカオ、ダルピリップそれぞれのバランガイキャプテン、そして NPC の代表が、その MOA にサインを連ねている。

しかし、この「合意」が後の摩擦の原因と化す。その理由は、ベンゲット州、特にイトゴン町において住民レベルでの十分な合意形成ができていなかった点である。イトゴン町では、1995年6月12日に早くも被影響地域のアンブカオ、ダルピリップ、ティノンダン、ポブラシオンの4つのバランガイの住民代表からプロジェクト撤回の要望書が大統領宛に提出され、その後も現在に至るまで継続的に大統領、NPC、最大融資元 JBIC (日本国際協力銀行) に宛てて、またメディアを通して同様の要望書が提出され続けた。住民の懸念は、1950年代、60年代に建設されたビンガダム、アンブクラオダムの時と同様、「上流部への影響が EIA で過小に見積もられているのではないか」、「被害に対して補償はもらえないのではないか」というものであり⁶、上流への調査に対する不服がイトゴン町議会でも取り上げられるようになる。

1997年2月、イトゴン町議会による上流部への社会影響調査の要求が出され (Resolution 5)、同7月には ECC 承認のための17項目の条件を DENR、NPC に提出した (Resolution 109)。更に、この議決は、12月にベンゲット州議会でも支持された (Resolution 1071)。以降、この議決は、フィリピン特有の地方政治家による公共事業の取得合戦にも振り回され、二転三転しながらも、未だ満たさ

⁶ アンブクラオダム、ビンガダムは、それぞれ1950年代、60年代にアグノ川上流に建設されたダムであり、当時、被影響住民は被害からの解放および被害時の補償をフィリピン政府から約束されていたが、その約束が十分に守られていなかった。特に、ビンガダム上流部では、土砂の堆積が深刻となり、少ない田畑や家屋が土砂に埋もれてしまった経験を有する。また、サンロケダムに対して強く反対した上流の4つのバランガイ、ダルピリップ、ポブラシオン、アンブカオ、ティノンダンでは、少ない住民がアンブクラオおよびビンガダムの直接的な被害者もしくは直接的被害者を親族に持っている。

⁵ 市町の下に位置する最小行政単位。

れていない条件として、今なお効果を発揮し続けている。これに対し、フィリピン政府およびNPC側も質問や批判に対して回答、改善、そして公共投資の投入を試みる。イトゴン町への社会影響評価を改めて実施し、更にピング、アンブクラオの両ダムへの補償調査および支払いを開始した。追加的な調査は、イトゴン町の被害主体を3世帯から61世帯に増加させ、61世帯への合意取得および生活補償としての移転計画の必要性を浮上させた。そして、この変化が合意形成に対して2つの問題を新たに提起することとなった。そのひとつは、61世帯の生活手段創出のための計画内容についてである。下流のパンガシナンでの移転開始以降、2つの移転地での生活手段創出頓挫の情報が継続的に伝えられているにもかかわらず、NPCの提起する移転計画がパンガシナンのそれと大きく変わっておらず、先住民族文化への配慮も不十分であることが、イトゴン町議会によるプロジェクト承認の最大の障害と化したのである。

更に、未だプロジェクトを揺るがす問題とはなっていないが、ダルピリップでの合意獲得プロセスに対しても、ダルピリップ住民およびNGOから異議が出されている。それは、適切な委員会を開催せずに、バラングイキャプテンが個人的判断で勝手にプロジェクト承認のサインを行っている点である。

プロジェクト開始後の被害世帯増大は、上記のような地方自治体の承認見直しの大きな原因となるのみならず、2つの意味で合意の正当性自体をその足下から大きく揺るがせる問題と化している。これが第二の問題である。そもそもECCは、EIAによって報告されたプロジェクトの被害可能性を前提として議論され、技術的な被害軽減条件を付け、適切な対象から合意を取得した後に発行されなければならない。更に、ダムによって失われる砂金採取という生活手段の被害を考慮に入れるならば、実質的な直接被害世帯は、サンマニエル町、サンニコラス町のおそらく全バラングイ、加えて近隣市町とそのバラングイにまで拡大している。このことは、プロジェクト承認のために集められた地方自治体の数が、数十という単位で不足

していたことを示している。このように、プロジェクトを正当化するための前提が大きく覆されている中での地方自治体からの反発は、手続きの合法性に対する疑問を伴うならば、大きな不安定要素と化す。

3-2. コミュニティおよび個人レベル

被影響住民に対する合意形成の問題は複雑である。1995年よりパンガシナン州のサンマニエル町およびサンニコラス町、1996年よりイトゴン町において、被影響住民に対する合意形成が開始された。

合意形成における第一の問題は、そこに膨大な数にのぼる被害世帯が組み込まれていない点である。EIAでは、下流域における砂金採取世帯が被害世帯として認識されている。この砂金採取世帯の人数を把握し、その世帯を特定することは、非常に困難であるが、少なくとも千世帯以上という規模で存在しており、その居住範囲も被害地域として認識されている3町6バラングイよりもかなり広範に及ぶ。サンニコラス町では全てのバラングイから、おそらく少なくとも数十世帯—多くのバラングイでは、百世帯もしくは数百世帯に上る—という規模が少なくとも年に数日を砂金採取に当てており、サンマニエル町でも同様であると思われる。特に最も砂金の採れる台風シーズンとなると、これら2町のみならず、近隣町村からも一人数は少ないものの一集まって来る。そして、これら生活手段の一部もしくは全てを喪失する世帯が、直接的な合意形成にあずかっていない。

NPCによる「合意」獲得のあり方にも大きな問題が存在している。表6は、2001年9月にラグパン移転地において行った合意に関するアンケートの結果である。調査当時、移転地は建設途中であったこと、ここへの移転予定世帯のほとんどが貯水のある程度進むまで被害を受けない地区（シティオ⁷ ブランギット）を元々の居住地としていたため、かなり多くの世帯がブランギットを生活の拠点にしていた。このため、実質的な入居世

⁷ シティオはバラングイを構成するコミュニティの単位。

帯は二十数世帯、それらの内少なくない世帯もブランギットとの往復の生活であり、調査を行った3日間でアンケートをとれたのは11世帯のみであった。調査対象者の数に大きな制限はあるが、このアンケート結果は合意の特徴を顕著に物語っている。

その第一の特徴は、合意取得方法である。合意取得のために訪れた NPC 職員は、合意を渋る住民に対して、「合意してもしなくてもどうせ建設するのだから、早く賛成した方が得だ」との説明を行っている。このことは、ラグパン移転地からの移動途中で偶然に会ったラグパン住民5世帯でも確認できた。そして1998年の仮設移転地および2002年のカマンガアン移転地での調査においても、やはり多くの住民が同様に語っている⁸。

アンケート対象者中、5世帯が「合意していない」という回答を行っている。この一見、奇妙な回答が第二の特徴である。実際、彼ら／彼女らは、移転および補償獲得にサインをしており、それが NPC 側の住民合意の根拠となっている。そして、住民もそのサインについては認めている。しかし、住民の言葉を借りるならば、「サインはしたが、プロジェクトを認めたつもりはない」。これはイトゴン町での補償獲得世帯にも当てはまる。「補償のためのサインはしたが、プロジェクトには反対であるし、合意をした覚えはない」という同様の回答が幾人かの補償合意者から聞かされた。

このような矛盾した回答は、合意もしくは契約に対する住民の理解不足、そしてフィリピンという政府や法への信頼の薄い環境を考慮に入れるならば、十分に説明を付けることができる。まず、補償獲得がプロジェクトに対する合意と同等のものであると補償合意者は十分に理解していない。これは、このような契約方法に住民が慣れていないということ、そして表にも示されているように、契約文書を十分に理解していないことによって生

じている。土地の貸借や借金に関する契約であれば、住民にとって非常に一般的であり、契約者同士での意識の齟齬はほとんど生じない。また、罰則に関するものであれば、被害者への補償支払いが自分の犯した事柄の承認と不可分に結びついているため—例えば、灌漑のルールを破って水を多く自分の水田に引いたことに対して、罰金が科せられ、それを支払うという行為—、補償と合意は同等のものとして捉えられる。しかし、サンロケダムのような一方的なプロジェクトの押しつけでは(表6の備考1の欄)、彼ら／彼女らの合意に対する重要性は低くならざるを得ず、補償と合意とが対等に結びつき難くなる。加えて、多くの住民が契約書を十分に読んでいない。これは英語能力の不足に加えて、契約書を住民に渡していないことによる⁹。フィリピンでは、一般的に法律よりもその地方の有力者(＝ローカルエリート)や役人の裁量の方が強いと考えられがちである。そして、後述するように、ローカルエリートや役人との個人的な関係がさまざまな生活リスクを克服する手段となっている。したがって、特に政治力や経済力を持たない一般住民にとって、法律が彼ら／彼女らに対してプロジェクトに反対する権利や補償を受ける権利をいかに保障していたとしても、彼ら／彼女らへの反対は何の効果も持たないどころか、逆に反感を買って補償獲得の権利すら無視され、長期的にはリスク克服能力の大幅な低下にもつながる大問題へと発展するかもしれないと認識されるのである。

このような環境の下では多くの住民が、例えばプロジェクトに反対だとしても、リスク回避のため貰えるものは貰っておくという選択を行う。加え

⁸ 1998年の調査で多くの住民から「合意してもしなくてもどうせ建設するのだから、早く賛成した方が得だ」との強制的な合意取得方法について聞かされたことが、表6の調査を行うきっかけであった。そして、この調査以降も同様の発言を多くの移転住民から聞いている。

⁹ 契約書を各世帯に渡していない点、多くの契約もしくは約束事に関して住民の主張と事業者側の主張との真偽を確かめることを非常に困難としている。例えば、サンロケの事例のみならず、マシロック石炭火力発電所の事例でも、同様に移転住民は電気、水道代金が無料で提供されると NPC によって説明されたと主張し、それに対して NPC 側は、完全に否定している。このような契約内容の齟齬の例は枚挙にいとまがない。合意を採って回る現場スタッフが合意取得の円滑化を図るために言ったデマなのか、それとも根も葉もない噂が広がったのか、どちらもフィリピンでは非常にあり得ることであり、その真偽を確かめることはできそうもない。

て、「合意していない」と回答した世帯は、調査の直前に通過した強力な台風によって、自宅（シティオ ブランギット）での生活が困難になったためにやむを得ず移転契約書にサインをして移ってきた人たちであった。彼らの選択は、ある意味選択の余地のない状況の下で行われたものであり一要素するに彼ら／彼女らは選択していないと認識している一、したがって彼ら・彼女らの頭の中では、移転合意や補償獲得合意はプロジェクトへの合意と切り離されるのである。

上記のような「合意」に対する住民の考え方は、次に示すような筆者とプロジェクトに合意したと事業者側から認識されている補償合意住民との会話に顕著に示されている。

筆者「Nさん、補償をもらう契約書にサインしたんだって？」

N 「ええ、確かにサインをしたし、補償ももらいました。」

筆者「なんで、補償契約書にサインをしたんですか？」

N 「私の家がダムで破壊されることに対して補償金をくれるとNPCが言ってきたからです。」

筆者「それは、ダムに対して合意をしたということですか？」

N 「それは心外です。これはダムへの合意ではないし、契約文書にもそのようなことは一言も書いていません。ダムに対しては、どんなに補償をもらおうとも合意するつもりはありません。」

(2001年9月のヒアリング調査より)

この調査結果(表6)では、プロジェクトに対してほとんどの世帯が不満を言うことが可能であると答えている。しかし、生活の困窮化が進むとともに一言い換えるならばローカルエリートや役人の支援が必要になるとともに一、ラグパン移転地からの批判は積極的なものから消極的なものとなり、そして沈黙へと変わっていった¹⁰。そして、この傾向は、ラグパン移転地ほどではないにしろ、カマンガアン移転地にも十分に当てはまる。

4. 生活変化

生活の補償については、1)そこで生活するのに十分か、2)以前の生活と同等もしくはそれ以上の生活の質を達成できたかという2点から評価される必要がある。

4-1. 調査対象

生活の変化に関する調査は、サンニコラス町およびサンマニエル町における特定のバラングイの居住世帯を対象として行ったものである(表1参照)。調査対象のバラングイとして選定したのは、カプロアン、ダルンピナス、サンフェリペ・イースト、サンフェリペ・ウェスト(ラグパンを除く)、ラグパン移転地、サルパッド、サンインドロ、サンラファエル・ウェスト、サント・トマス、ベンシカン(以上、サンニコラス町)、ナラ、サンロケ(カマンガアンを除く)、カマンガアン移転地、サンボンファシオ(以上、サンマニエル町)である。サンニコラス町では、被害予定地のみならず、それ以外にも被害が広がっていること、アグノ川から離れれば、それだけ被害は軽減するとの一般的な予測に反して、アグノ川よりも離れたバラングイにおいて特に深刻な被害を生じさせていることを明らかにするため、サルパッド、サンインドロ、サンラファエル・ウェスト、サント・トマス、ベンシカンを調査対象に加えた。また、サンマニエル町では、被害の深刻な世帯に焦点を当てるため、ナラ、サンロケを主な調査対象とした。なお、サンボンファシオは、当初調査対象として予定していなかったが、インタビューの成り行きで3世帯に対して行うことができた。

10 彼ら／彼女らの沈黙への転換は、少なくとも不満の縮小ではない。逆に、生活の困窮化は多くの世帯で目に見える程に進んできており、問題は深刻化している。推測の域を出ないが、筆者がこの調査を行ったのが、ちょうど多くの世帯が台風の被害のために移転地に移動せざるを得なかった時分であり、表6のような勇ましい回答は、まだ怒り冷めやらぬ状況であったが故のものとすることもできる。あきらめと状況の困窮化、そして頻繁に行われた有力者ロドリゴ元町長による恫喝一ほとんどのサンニコラス町民が、彼に依存し、そして非常に恐れている一が、沈黙を作り出したのではないだろうか。

表6. 合意形成に関する調査(ラグバン移転地)
調査実施日 2001年9月7-9日

質問項目	回答者										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
Q0 建設前の主な生活手段	農業 砂金	農業 砂金	農業	農業	農業労働 砂金	砂金	漁業 砂金	砂金	砂金	農業 砂金	農業 砂金
現在の主な生活手段	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	養豚	ダム工事	なし	なし
Q1 プロジェクトを知ったのはいつですか?	NA	1998	1998	1998	1995	1995	1995	1995	1995	1995	1995
Q2 どのようにして知りましたか?	役人	友人	友人	噂	UGAT	UGAT	UGAT	UGAT	NPC	UGAT	NPC
Q3 建設計画に同意したのはいつですか?	NA	1998	してない	NA	1995	1995	1995	1995	1995	1995	1995
Q4 なぜ、同意したのですか?											
反対してもしょうがないから	○	○		○			○		○		
(反対だけれど、どうせ建設されるから)											
嫌がらせをされるかもしれないから		○									
補償に影響がでるかもしれないから											
強制的に合意させられた											
合意していい			○		○		○			○	○
補償が魅力的だから						○					
ダムが必要とされているから											
その他				洪水被害	洪水被害			洪水被害		洪水被害	洪水被害
Q5 同意したことに対してどう思っていますか?											
良かった											
後悔している	○	○	○	○		○	○		○		○
なんとも言えない											
Q6 Q5で良かったと答えた人について その理由は何ですか?											
補償を十分にもらったから											
将来の可能性が広がったから											
以前よりも生活が良くなったから											
その他											
Q7 Q5で後悔していると答えた人について その理由は何ですか? (同意していない人は同意していない理由について)											
補償が不十分だから	○					○		○	○	○	○
現在の生活が困難だから	○	○	○	○		○		○	○	○	○
補償約束が守られるか疑わしいから	○	○	○	○		○		○	○	○	○
生活が大きく変わったから	○							○		○	○
外から大勢の人たちが入ってきたから											
その他											
Q8 Q5で何とも言えないと答えた人について その理由は何ですか?	該当者なし										
Q9 プロジェクトに対して不満を言えますか?			NA					NA			
言える	○	○		○	○	○	○		○		○
言えない										○	
Q10 Q9で言えないと答えた人について その理由は何ですか?											
後で嫌がらせがあるかもしれないから											
身の危険があるかもしれないから											
補償や雇用に不利になるかもしれないから											
その他											
備考1 役人に拒否の選択肢を与えられなかった 「同意しなくてもどうせ建設する」この説明を受けた	○	○	○	○	○	○	○	○	○	NA	○
備考2 契約文書をちゃんと読んでいない(NPCの説明のみ)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	NA	○

注1. UGATは、NPCによって組織された住民合意形成のための組織。NPCや役人と答えている者も同じであると思われる。

注2. 合意していないと答えている者は、台風による洪水で居住地が住めなくなったため、他に選択肢がなくて移転した世帯。彼ら・彼女らは、移転の合意をプロジェクトの合意と認識していない

4-2. プロジェクト以前

表7-A、Bは、被調査世帯のサンロケダム建設開始以前の生活手段について調べたものである。一部の世帯を除いたほとんどの世帯が、農業（農業労働を除く）、砂金の2つの生活手段のどちらかもしくは両方を主要な生活手段として利用している。内訳について見ると、農業を主な生活手段としている世帯は98世帯（66%）、砂金については133世帯（89%）、その他を主な生活手段としている世帯は57世帯（38%）となっている。その他の中で多いのは、農業労働35世帯、続いてOCW（海外出稼ぎ労働）12世帯、大工4世帯となっている。また、その組み合わせでは、農業のみを主要生活手段としている世帯が11世帯、砂金採取のみ21世帯、その他のみ1世帯、砂金と農業60世帯、

農業とその他4世帯、砂金とその他29世帯、3つ全て23世帯である。

a. 生活手段

農業

農業は2世帯を除き、米が中心となっている。米以外の作物である野菜やコーンは、乾期の水不足の下でのみ米よりも好まれるに過ぎない。先の例外2世帯も保水能力の問題故にモンゴ（豆類）に特化せざるを得ない状況下での選択であった。米は灌漑環境次第で一期作から三期作まで行われている。表8は、約10世帯程度を対象に作成した稲作のコストベネフィットである。1ha、6人家族、水牛有り、農地保水能力良好という条件の下でのものであるため、一般化はできない。労働力

表7-A. サンニコラスにおけるアンケート対象世帯の生活手段:建設以前

		世帯		稲作		その他		砂金採取		家畜						その他仕事	
		人数	ha	収穫数	所有	生産物	ha	所有	乾季	雨季	鶏	アヒル	豚	牛	やぎ		水生
Cabuloan	(1)	4	0.4	2	分	コーン	0.4	分	0.5	5	41					1	
	(2)	3	1.5	2	○	コーン	1.5	○	0.2	0.5	5		8				
	(3)	6							0.3-1	1							メイド*2 農業労働 セキュリティガード
	(4)	4									12						OCW
	(5)	4	0.4	2	○				1	2							OCW
	(6)	6	1.5	3	○				0.1	1-2			3	2		1	ハラカイキャプテン
	(7)	4	0.7	2	分	野菜 コーン	0.5 0.5	分	0.5	1.5			13				
	(8)	4	0.5	3	○				0.5-1	2-10			1				
	(9)	6	0.5	1	○	コーン	0.5	○	0.3	5-10	5	6					
	(10)	7							n.a	n.a							
	(11)	7	0.33	2	分	コーン	0.3	定	n.a	n.a						1	農業労働*2
	(12)	4	1	2	○	コーン	1	○	n.a	n.a							
	(13)	8	n.a	n.a	n.a					n.a							農業労働 大工
	(14)	n.a	0.4	2	○	野菜	0.4	○	n.a	n.a	沢山		2	1		1	カガワット
Dalumpinas	(1)	6	不規則的小作						1	4-5						1	農業労働*2
	(2)	5	2	2	分				1	2-5							
	(3)	10	0.4	2	○				n.a	n.a							農業労働*3
	(4)	9							1	4							大工 農業労働*3
	(5)	4							n.a	n.a							農業労働
San Felipe East	(1)	9	0.25	2	定				5	15	12			2		1	
	(2)	4							5	10	35			1			農業労働
	(3)	2							3	20							
	(4)	3							n.a	n.a			数頭			1	農業労働
	(5)	4	0.5	2	○				0.5	0.5-2							
	(6)	4	n.a	1	○	コーン	n.a	○	0.5	1-2							
	(7)	8							0.2	0.5-1							農業労働
	(8)	5	n.a	1	分				1	10							農業労働
	(9)	5	0.5	2	分				1	12							農業労働
	(10)	6	1	2	分				1	10							農業労働
	(11)	6	n.a	2	分				1	10							
San Felipe West	(1)	7	2	2	○						50			2			
	(2)	3	1	3	○						50			1			軍人年金
	(3)	5	1	3	○						30		10				
	(4)	5							1-1.5	3-5	50				5		カガワット
	(5)	7							2	4-5	20			1			農業労働
	(6)	4	1	2	※1				1-2	10-20	3			1			
Lagpan Resettlement Site	(1)	3	1	2	サルダ				1	2.5	10	2			1	2	
	(2)	6	0.4	2	サルダ				1	10	32	25	2	2		4	
	(3)	3	0.4	2	サルダ				1-2	5-10	205						OCW
	(4)	4							0.5	5-7	20						農業労働 大工
	(5)	4	0.8	3	○				1-2	10-20	4	15		2	3	1	
	(6)	5	1	1	○				1-2	5-20							
	(7)	6	0.5	2	※1				1.5	5	90		8	2			
	(8)	8	0.25	2	定				1	2.5	45	56				1	
	(9)	6	1	2	○				0.5-1	1.2-20	20		2	2		2	
	(10)	7	1	1	○				1	3-30			10-	2		1	雨期のみ金仲買人
	(11)	7							n.a	n.a	沢山		数頭	1		1	農業労働
	(12)	n.a							n.a	n.a	沢山				沢山	1	農業労働
	(13)	n.a	4.5	2	○				n.a	n.a			数頭	1		1	
Salpad	(1)	7	0.5	2	○				0.5-1	3-5						1	
	(2)	8	0.5	2	○				0.5	3-4	5					1	
	(3)	6							1	4							農業労働
	(4)	3							0.5	2-4							農業労働
	(5)	4	0.5	2	分				0.5	5						1	

が多い世帯であれば、農業労働に依存する率は少なくなり（しかし、その労働力が他から収入を得る機会を逸することにもなるので、農業労働需要が不足していない限り、大きな違いにはならない）、世帯構成員に成人が多ければ自家消費量も増加す

る。水牛を有していない世帯は、その賃貸料も必要となる。また、卸売り価格 9 ペソとは、トレーダーと呼ばれる仲買業者への販売価格であり、もし市場に直接販売できるのであれば、それよりも 0.5 ペソ程度高くなる。しかし、かなり多くの農

表7-A, つづき

表7-A. フラタ															
San Isidro	(1)	8	0.7	3	分			1	5-10	10					農業労働 農業労働 洗濯婦
	(2)	12	1	2	分			0.5	2						
	(3)	7	0.5	2	分			1	10	30	2		1		
	(4)	7	2	2	分			0.5	5				1		農業労働
	(5)	9	2	2	分			0.5	5				1		
	(6)	3						1	4						
	(7)	4	1	2	○			0.5	15						農業労働
	(8)	5	0.5	2	○			1	4			1	1		
	(9)	7	1	2	○			1	5			1			
	(10)	3						1	5						農業労働 農業労働
	(11)	4	2	2	分			1	5				1		
	(12)	8						n.a.	n.a.						
	(13)	3						1.2	10		9				
San Rafael West	(1)	7	0.5	3	分			1-1.5	2-3	5		1	2	1	
	(2)	5	0.5	3	○			0.5-1	5-10	10					
	(3)	6	0.5	3	分			1-2	3-10	10		3	1	1	
Sto. Tomas	(1)	9	1.5	3	○			1.5	5			3	1		OCW*2
	(2)	8	0.5	3	○			1	5	20			1	1	
Bensican			0.4	3	定										
	(1)	2						n.a.	n.a.	沢山	数頭	1			農業労働
	(2)	3						n.a.	n.a.	沢山	数頭	1			農業労働
	(3)	2						n.a.	n.a.	沢山	数頭	1			農業労働
	(4)	n.a.						n.a.	n.a.						農業労働
	(5)	6	3	1	定			n.a.	n.a.		数頭	1	1		農業労働
	(6)	10	1	1	定			n.a.	n.a.				1		農業労働
	(7)	3	0.5	1	定			n.a.	n.a.		数頭	1			薪拾い 木イチゴ採取 農業労働
	(8)	4	0.5	1	定			n.a.	n.a.						
(9)	10	0.25	1	定			n.a.	n.a.				1		コングラス採取 薪拾い	

注1:世帯番号において、普通の数字「※(1)」は2002年3月の調査、アンダーラインのついたもの「※(2)」は2002年9月の調査、斜体数字「※(3)」は2003年3月の調査、アンダーラインのついた斜体数字「※(4)」は2003年9月の調査によるデータを示す

注2: 所有は土地所有形態を示しており、○は自己所有地、定は定額小作、分は分益小作を指す

注3:サルダとは、無利子でお金を貸すかわりに、ある一定期間土地利用権(小作料なし)を得る契約方法である

注4:砂金採取は1日採取g(グラム)

注5:その他仕事において、OCWIは海外出稼ぎ労働(Overseas Contract Work)、サリサリは自宅軒先で営む雑貨屋、カガワットは、選挙で選出されるランガビ委員、ランガビキヤンテンはその長、トラシクルはサイドカー付きの客載せオートバイ、ジブニーは二十人程度乗れる乗り合いバス、ゴングラは屋根に利用する草を指す

注6:色塗り枠は、その世帯の主要な生活手段を示す

※1:土地所有者はいるが、小作料を取りに来ないので払ったことがない

筆者のアンケートにより作成

家が、初期投資金を仲買業者から借りており、実際には表8に1万ペソ程度の借金およびその返済が加わる。借金返済方法は契約方法によって多様であり、資金のみならず肥料や農薬等も仲買人に依存する場合、その購入価格は割高になり利子は5 or 10%/月となる。この利子率は、収穫物の売却量に依存する。また、仲買業者ではなく近所の金貸しに依存する場合（ベンシカンの多くがこの形態である）、5%の利子で直接市場に作物を売ることができる。

土地の利用形態には、自家所有（45世帯）、分益小作（39世帯）と定額小作（7世帯）¹¹ の他、サルダ（もしくはサンラ）¹² と呼ばれるこの地域特有の土地貸借形態が存在する（3世帯）。これ

は、資金を持っていて農地を手に入れたい世帯と農地は持っているが急ぎ資金が必要な世帯との間で結ばれる契約であり、土地の価格（＝収穫量）ベースで交渉される金額（土地価格とほぼ同一）の説明をサルダ利用者から受けたが、それが本当に一般的かどうかは不明）を無利子で一定期間貸すのと引き替えに、地代なしで契約対象の農地を利用できるというものである。実際には近隣（といっても歩いて2～3時間はかかる）との契約が主になっており、サンフェリペ・ウェスト、より

11 これらは全て、農地を主要生活手段としている世帯のみを対象としている。

12 サルダはイロカノ語、サンラはフィリピン語。

表7-B. サンマニユエルにおけるアンケート対象世帯の生活手段:建設以前

		世帯 人数	稲作		その他		砂金採取		家畜						その他仕事	
		ha	収穫数	所有	生産物	ha	所有	乾季	雨季	鶏	アヒル	豚	牛	やぎ	水牛	
Narra	(1)	8	0.5	2	分			0.5-1	10	21		1				
	(2)	5	1	2	分			2	8	10	5	1		2	1	
	(3)	5	0.5	2	分			1.5	1.5	20	20		2		2	
	(4)	6		1	2	分		5	15							
	(5)	4	0.5	2	定			1	10	50					2	
	(6)	6	0.5	2	定			5	5							
	(7)	7	0.4	2	定			1	5	20		1	1		2	
	(8)	4						1.5	5-10							
	(9)	11	1.5	2	○			1	8	20					2	
	(10)	6	2.5	2	○			1-3	5-10	30	15	3		6	1	
	(11)	5	2.5	2	○			2	3-10	50	12	3	4	30	1	
	(12)	2						0.5	5-12.5							
	(13)	6	0.3	2	分			2	5-10	20	10	5	1		2	
	(14)	5	1	2	○			3	5-10	5						
	(15)	4	0.3	3	○	野菜	1.2	○	3	10	50	27	2	2	3	2
	(16)	6	1	2	分			3	3-5	2						
	(17)	3	0.25	2	○			2-4	8							
	(18)	3	1	2	分			1-2	4-5	4	4	1				
	(19)	6	0.25	2	○			2-3	3-4	4	15					
	(20)	4	1	2	分			1	2	3	4					
	(21)	3	0.25	2	分			2	1.5-7	4			1			
	(22)	6						2-3	15-20							
	(23)	4	1	2	分			3-4	6-7	2	6					
	(24)	3	0.3	2	○			3	15-20							
	(25)	7	1	2	分			2-3	4-5	10			1			
	(26)	5	0.5	2	○			3	4-5							
	(27)	5	0.2	2	○			2-3	5-15	6	3	2				
	(28)	6	0.5	n.a	○			1-2	5	5					1	
	(29)	4	0.5	n.a	○											
San Roque	(1)	6	1.5	2	○				1-2.5	60						
	(2)	4	7	2	分			0.2	1	15		2		10	1	
	(3)	6	2	n.a	○			n.a	n.a			数頭				
	(4)	2	n.a	n.a	n.a			1-5	1-5	沢山		数頭	1			
	(5)	5	1	2-3	分	野菜	n.a	1	10							
	(6)	4						1	5			数頭	1			
	(7)	8	0.6	n.a	n.a			3	5	沢山						
	(8)	6						n.a	n.a							
	(9)	3				野菜	n.a	1	5	沢山		数頭	1			
	(10)	4	1	n.a	○			1	5-10							
	(11)	8						1	5-10	沢山		数頭	1			
	(12)	4				野菜	n.a	○	1	3						
	(13)	5	3	n.a	○			5	20							
	(14)	5	n.a	3	○			3	10							
	(15)	3	1	2	分			n.a	n.a							
	(16)	10	0.25	3	分			n.a	n.a							
	(17)	6						n.a	n.a							
	(18)	15	0.5	1	分	野菜	0.5	分	3-5	n.a						
	(19)	5	0.5	1	分	野菜	0.5	分	0.5	5						
	(20)	5	n.a	n.a	分	野菜	n.a	分	1-2	3						
	(21)	9	n.a	n.a	分			4	10							
	(22)	3						1-2	5-10							
	(23)	4	0.5	n.a	n.a	野菜	n.a	n.a	n.a	n.a						
Kamangaan Resettlement Site	(1)	5	2	3	○			1	15							
	(2)	3	0.25	1	分			0.5-1	2-5	10				3		
	(3)	4	0.5	2	分	野菜	1	○	5-10		20	5	2	10	3	
	(4)	7	1.5	2	分	野菜	0.5	分	5-12.5		20	4	3			
	(5)	7						0.5	3							
	(6)	6				野菜	0.5	○	1	2-10	50		2	1		
	(7)	2	1	2	○	野菜	1	○	2-3	6-8	30	3	21			
	(8)	1	1.5	2	分			4	7-10	17	17		1	3	2	
	(9)	6	0.25	2	分	野菜	0.5	分	1	7-8	50		2	1	50	1
	(10)	3	0.5	3	分			2-3	5-10	10			2			
	(11)	4						1.5	20	20					2	
	(12)	6	1	1	分	野菜	1	分	1	5-10	200	20	10	3	20	13
	(13)	8	1.5	1	分			0.5	3-5	10		2	2			
San Bonifacio	(1)	3	1	2	○					10					1	
	(2)	6	5	2	○											
	(3)	5	1	2	分					10		1				

注1:世帯番号において、普通の数字※(1)は2002年3月の調査、アンダーラインのついたもの※(2)は2002年9月の調査、

斜体数字※(3)は2003年3月の調査、アンダーラインのついた斜体数字※(4)は2003年9月の調査によるデータを示す

注2:所有は土地所有形態を示しており、○は自己所有地、定は定額小作、分は分益小作を指す

注3:サルダとは、無利子でお金を貸すかわりに、ある一定期間土地利用権(小作料なし)を得る契約方法である

注4:砂金採取は1日採取g(グラム)

注5:その他仕事において、OCWは海外出稼ぎ労働(Overseas Contract Work)、サリサリは自宅軒先で営む雑貨屋、カガワットは、選挙で選出されるバラガイ委員、バラガイキャプテンはその長、トライシクルはサイドカー付きの客載セオートバイ、

ジブニーは二十人程度乗れる乗り合いバス、コングラスは屋根に利用する草を指す

注6:色塗り枠は、その世帯の主要な生活手段を示す

筆者のアンケートにより作成

詳細に見るならばシティオ・ブランギットとブランギット以外のサンフェリペ・ウェスト内の人との間で良く見られる。これは、ブランギットが険しい山道によって他シティオから隔たれていたため市場向けの農業に不向きであること、後述のように砂金の補完生活手段として農業が非常に有効であることからブランギット住民が低地の農地を欲する傾向にあり、更にブランギットが砂金採取の非常に恵まれたロケーション（収入機会に恵まれたロケーション）であることによる。

砂金

砂金採取はアグノ川流域で非常に多くの住民に営まれており、その数はおそらく千世帯を超す。この砂金採取を行う河原は誰にでも開かれており、炎天下での重労働ではあるが、女性や子どもの力でももちろん、多くの場合、採取量は落ちるが十分に行える。必要な道具は、木箱と鉄網、毛布のような毛の若干長い布、スコップ（上流のイトゴン町では数十メートルのパイプも必要）のみであり、総額で1,000～3,000ペソと参入コストも安い。より専門的にやる場合、人工的に水流を作り出すために軽量ポンプを10,000ペソ程度で購入している。これも雨期の1期間努力すれば、3、4人のグループで賄うのは、それ程大変なことではない。

この砂金は、川の流量と運に大きく依存しており、流量の多い雨期、特に台風直後が最も多く採れ、乾期は少ない。稀ではあるが台風直後だと、1日20～30g／グループもの金を採ることもあるという（金の価格は国際価格に準じており、1g当たり250～300ペソ程度）。1グループ大体3～4名であるため、1人当たり3,000ペソにもなるが、これは彼ら／彼女らの半月の生活を何とか賄える額である。多くの場合、家族で1グループを構成しているため、2ヶ月分の生活費が1日で獲得できる計算になる。

表7で雨期に10g採取できると回答している世帯の多くは、ブランギットの辺りを採取場所としており、砂金を主要生活手段としている。これら世帯は、数日間ブランギット周辺で簡易小屋を作っ

て滞在して砂金を採り、1～2日自宅に戻るというサイクルを雨期の間中繰り返す。乾期にもかなりの日数を砂金採取に当てており、1日採取量は1～2g程度。雨期と比べて採取場所での滞在日数もかなり少ない。乾期の砂金従事日数は世帯によって大きく異なっており、1／3程度を砂金採取で費やす砂金完全依存世帯から生活困窮時のみ従事する世帯まで多様である¹³。一方、下流を採取場所に行っている世帯は雨期で2～5g、乾期には0.5g程度となっている。

しかし、これらの表の数値は、かなり過大に評価（＝申告）されているものと思われる。金仲買人へのヒアリングと砂金依存世帯への時間をかけたヒアリングから筆者が推測するところでは、砂金完全依存世帯で雨期（3ヶ月）の1日平均採取量3g、実質労働日数60日、乾期（9ヶ月）の平均採取量0.5g、実質労働日数135日（月15日）が妥当な数値であろう¹⁴。ただ、何らかの理由で収入を増大させなければならない状況に置かれている世帯であれば、雨期の労働日数を80日程度、乾期も180日程度まで増やすことも可能である。また、砂金と農業の両方に従事している世帯では、雨期の平均採取量2g、実質労働日数50日、乾期の平均採取量0.3g、実質労働日数49日（月7日）。調査対象のほとんどの世帯が、これらの間に位置するものと思われる。もちろん、実際には雨期のみ、もしくは台風直後のみに砂金採取に従事するものも多く、また、借金を緊急に返す必要性に迫られて突発的に従事する世帯も少なくない。

13 調査時、少なくない調査対象の女性が、乾期の間、小遣いの欲しいときにのみ砂金を採りに行く夫に対して笑いながら文句を言っているのを聞かされた。

14 この推計は、栗田英幸「巨大資源開発のディレンマ：ケイパビリティの視点から見た生活手段評価に関する一考察」『愛媛大学法文学部論集 総合政策学科編』第14号、愛媛大学法文学部、2003の数値よりも若干下方修正したものとなっている。フィリピンでは、調査対象者が調査者の意図を敏感に察知して、サービス精神からか、こちらの喜ぶ回答を行うことが多く、また対象者自身が補償要求や建設反対という実際的な問題を抱えていたため、加えて大量に採れた時ほど良く記憶しているため、そして自尊心から、表7のような過大な回答につながったものと思われる。

表8. 稲作の1ha、1収穫当たりのコスト・ベネフィット(ペソ)
: 6人世帯の一般的な例での概算(二期作)

米はこの辺りで一般的なRC18で計算		
代掻き	2,300	代掻き1回
種	700	
除草剤	1,000	
田植え	2,000	労働者使用
農薬	4,000	
収穫	2,500	労働者使用
12,500 ペソ		
収穫量100カバン(1カバン約50kg)とすると...		
・脱穀: 収穫量の7% なので 手取り93カバン		
・卸売価格9ペソ/kg、自家消費43カバンとすると、		
輸送価格は、50ペソ(1カバン10ペソ)		
.....		
現金収入は、		
$9(\text{ペソ/kg}) \times 50(\text{ペソ/カバン}) \times 50(\text{カバン}) = 22,500 \text{ ペソ}$		
自家消費は、マーケットでの購入価格15ペソで計算		
$15(\text{ペソ/kg}) \times 50(\text{kg/カバン}) \times 43(\text{カバン}) = 32,250 \text{ ペソ}$		
したがって、		
現金収入	22,500	
自家消費費用	32,250	
コスト	-12,500	
利益	42,250ペソ/収穫	
☆分益小作の場合(地主:小作=50:50の場合)		
取り分...50カバン → 脱穀後46.5カバン		
※この場合、全て自家消費へ		
自家消費費用: $15 \times 46.5 \times 50 = 34,875 \text{ ペソ}$		
投入コストは、半額負担となるため、6,250ペソ		
したがって、利益=28,625ペソ		
筆者のヒアリングにより作成		

表9. 豚、牛の便益計算

★豚	
肥育コスト(3ヶ月)	
子豚購入価格	1,500
飼料	3,000
	4,500
市場買取価格	4,500~5,000
利益	0~500ペソ
★牛(3年肥育)	
仔牛購入価格	10,000
市場買取価格	20,000
利益	10,000(年間3,000)ペソ
筆者のヒアリングにより作成	

その他

農業労働は、砂金、農業に次いで多くの世帯が従事している生活手段である。特殊な技術も道具も必要なく、体ひとつで若年から高齢層まで幅広く参加可能である。この点では、砂金採取よりも参入障壁は低い。しかし、農業労働は田植えと収穫の時期のみに限定されており、賃金も低い。労賃は150ペソ/日であり、農業労働に多くを依存している世帯で1収穫期間(田植え1回、収穫1回)に40~50日程度、年間では80~100日(=1人当たり12,000~15,000ペソ)程度従事する。逆に、農業労働への依存の少ない世帯では、年間20日ほどしか従事していない。

OCW (Oversea Contract Worker)¹⁵ は、5年から10年程度の長期間のものが多く、彼ら/彼女らからの定期的もしくは不定期的な仕送りやOCW終了時での巨額の持帰り資金は非常に大きな生活

の助けとなる。調査地では中東諸国や韓国、台湾、香港、マレーシアへの出稼ぎが見られたが、仕送り額は1ヶ月平均にすると1,000~2,000ペソ程度。家計に非常に大きな助けになる反面、参入障壁は高い。英語能力に加えて、申請のための巨額の初期投資—国や職種によって異なるが、一般的に1万ペソ前後—が必要とされる。

大工仕事は、近所からの仕事請負が多く、家や家具の作成もしくは修繕を主な内容としている。また、都市部の建設会社もしくは組合との契約にも不定期的に従事している。契約は1日当たり150~300ペソ前後。年に数回しか契約にあずかれない者から平均すると月1週間程度あずかれる者までおり、1回の期間も1週間から1ヶ月以上まで多様である。この収入機会の差は、機会利用能力に大きく左右されている。非常に不定期で請負額も一定していないため、平均収入を試算することは困難である¹⁶。

多くの世帯が何らかの家畜を有しているが、主要な生計手段としている世帯はない。表9は、牛

¹⁵ もしくは OFW (Oversea Filipino Worker) とも呼ばれる。

と豚のコストベネフィットを示したものであり、非常に少ない利益しか生み出していないことが分かる。長期的な高インフレの下、農地流動性も低く—この点は他の農村と大きく異なる—、他に投資機会をほとんど有さない調査地のような状況では、それ程大きくないリスクで小さいながらも利益—この場合に意味する利益とは、市場売却によって得られる利益というよりも、市場から購入するよりも安上がりになり、更にいざという時に換金できるという性格を有する—が得られ、主要労働力を割かずにすむ家畜への投資が好まれる。この意味からすると、家畜は貯蓄としての役割を強く有していると言える。

b. リスク管理機能と機会獲得機能

サンマニュエル町やサンニコラス町のように人口が増加しており¹⁷、ある程度安定している社会は、リスク克服および機会獲得のための機能を幾分なりとも有していると言える。表10は、最近20年の中で生活の苦しかった時の原因とその克服方法について調べたものである。

リスク管理機能

農業依存世帯にとって最も大きなリスクは、天災、特に台風やそれに伴う洪水である。この地域は台風の通り道になっていることと、大雨時でのビンガダム（アグノ川上流）による放流によって、毎年、数回の洪水に見舞われる。このため数年に一度の割合で雨期の著しい収穫量の減少を生じさせている。これは、1 ha 当たり 1 万ペソ程度の借金を抱える農家にとって、非常に深刻な事態と化す。そして、このような洪水の被害を賄って余りあるのが、砂金採取となる。洪水が深刻であればあるほど—これはアグノ川の水のみならず土砂（＝砂金）の流量の増加をも意味する—、このよ

うな事態は砂金獲得可能性の増大をもたらすからである。そして、このような安心感は借金を容易にするため、農業投入量の増加を促している¹⁸。

また、健康問題や家族の死等、主要労働力の一時的もしくは恒久的な減少も農業を営む上で大きな障害となる。特に、主要労働力が両親のみという世帯における夫の死や病気は、農業の持続を困難とする。このような場合、農地を親戚に貸して小作料を受け取り、妻や子どもたちは砂金への依存を深めることによって、収入減少を回避する。また、上記のような収入減対策で不十分な場合、例えば入院や薬のために多額の現金を一定期間必要とするような場合の対処方法として一般的にとられるのは、家畜の売却と親族、時には金貸しからの借金であり、それでも不十分な場合にはバランガイ・レベル、モニシパル・レベルでの地方政治家が資金のおよび手続き的¹⁹な支援を行っている。

砂金採取もそれだけでリスクを十分にカバーするものではない。十分な収入を得られない長い乾期、特に渇水は、生活を不安定にする要因と化す。乾期における炎天下での砂金採取は、例え農業労働よりも大きな収入が得られるとしても、多くの住民に割の合わない作業と認識させる。加えて、多くの住民、特に非先住民族は、農地保有を大きなステータスと認識し、砂金採取に対して農業よりも社会的に低い位置づけを与えているようである。砂金採取のみに従事している世帯の多くは、北部先住民族イバロイや彼らを親族に持つ世帯が多いように感じられるが、筆者のヒアリングでは、農業もしくは農業労働を選択しない理由として、農業技術（もしくは経験）を持っていない

18 後述の借金の変化で見るように、砂金採取の補完性が農業への積極的な増産意欲を創出している。

19 先住民族であるという町の発行する証明書を持している者は医療費が大幅に免除される。ヒアリングでは、町長がこの証明書を提供したことにより（本人は先住民族ではないのだが）医療費を大きく削減でき、大きな助けとなったと答える世帯もあった。筆者はこのような分野には精通していないので良く分からないが、さまざまな行政手続きによってかなりの医療削減が可能であるらしい。

16 一度、試算を試みたが、あまりにも得られる情報が曖昧で信憑性も低いことと、他生活手段と比べて重要性があまり高くないため、試算結果を出していない。

17 サンニコラス、サンマニュエルそれぞれの人口の変化は、1995年で29,058人、34,017人、2000年で31,418人、41,206人と急速な増加をたどっている。

表10. リスク認識とその克服経験

バランガイ	主要生活手段	アクシデント	克服手段
Cabuloan	(1) 農、金	夫死	農業・出稼ぎ
	(2) 農	台風	砂金・農業
	(3) 金、農、雇	農業雇用なし	
	(4) O	特殊事例	
	(5) 農、金、O	台風	砂金
	(6) 農	台風	砂金・コミュニティ
	(7) 農	健康	砂金・農業・豚飼大
	(8) 農、金	台風・砂金	
	(9) 農、金	地震後台風	
	(10) 金		
	(11) 農、金、農		
	(12) 農、金		
	(13) 農、金、農、他		
	(14) 農、金		
Dalumpinas	(1) 金、農	経済不況	na
	(2) 農、金	天災	砂金
	(3) 農、金、農	天災	na
	(4) 金、農、他	経済不況	砂金
San Felipe East	(5) 金、農	夫死	砂金・血縁
	(1) 金	台風・健康	台風は砂金、健康は血縁・農業
	(2) 金、農	砂金・出稼ぎ	
	(3) 金	なし	
	(4) 金、農		
	(5) 農、金	なし	
	(6) 農、金	なし	
	(7) 金、農	na	na
	(8) 農、金、農	天災	砂金・農業
	(9) 農、金、農	健康	砂金・農業
	(10) 農、金、農	天災・健康	砂金・農業
San Felipe West	(11) 農、金	天災・健康	砂金・農業
	(1) 農	台風	砂金・農業
	(2) 農、他	洪水	砂金・農業
	(3) 農	洪水	砂金・ボートを置いて
	(4) 金	なし	
	(5) 金、農	地震台風	砂金
Lagpan Resettlement Site (San Felipe West 内。以前はSan Felipe West内の シティ・プランギ ットに居住)	(6) 農、金	台風	砂金・コミュニティ
	(1) 農、金	台風	砂金
	(2) 農、金	なし	
	(3) 農、金、O	健康	砂金
	(4) 金、農、他	健康	砂金・血縁
	(5) 農、金	なし	
	(6) 農、金	なし	
	(7) 農、金	台風	砂金
	(8) 金	健康	農業・砂金
	(9) 農、金	砂金のとれない乾期	農業
	(10) 農、金、仲買	なし	
	(11) 金、農		
	(12) 金、農		
Salpad	(13) 農、金		
	(1) 農、金	天災	砂金・農業
	(2) 農、金	経済不況	砂金
	(3) 金、農	経済不況	砂金
	(4) 金、農	天災	砂金・農業
San Isidro	(5) 農、金	天災・経済不況・健康	na
	(1) 農、金	夫死	砂金・農業
	(2) 農、金、農	天災	砂金
	(3) 農、金、農、他	na	na
	(4) 農、金	天災・経済不況	砂金
	(5) 農、金	天災	砂金
	(6) 金、農	経済不況	砂金
	(7) 農、金	na	na
	(8) 農、金	天災・経済不況	砂金
	(9) 農、金	na	砂金
	(10) 金	経済不況	砂金
	(11) 農、金	天災	砂金
	(12) 金、農	経済不況	砂金
San Rafael West	(13) 金、農	経済不況	砂金
	(1) 農、金	台風	砂金
	(2) 農、金	台風	砂金
Sto. Tomas	(3) 農、金	台風	砂金
	(1) 農、金	台風	砂金
Bensican	(2) 農、金	台風	砂金
	(3) 金、農		
	(4) 金、農		
	(5) 農、金		
	(6) 農、金、農		
	(7) 農、金		
	(8) 農、金、農		
	(9) 金		

バランガイ	主要生活手段	アクシデント	克服手段
Narra	(1) 農、金	洪水	砂金
	(2) 農、金	台風	砂金・コミュニティ
	(3) 農、金、O	生活手段不足	
	(4) 金	なし	
	(5) 金	健康	農業
	(6) 金、O	OCW申請	砂金・借金 → 樹に補償を回す
	(7) 金、O	土地獲得以前	
	(8) 金、O	なし	
	(9) 農、金	台風	砂金
	(10) 農	台風	砂金
	(11) 農、金	台風	砂金・農業
	(12) 金、O	台風	砂金
	(13) 金、O	台風	砂金・農業労働
	(14) 農、金	台風	砂金・カナダO
	(15) 農、金	なし	
	(16) 金	健康	農業
	(17) 金	健康	トラシクル
	(18) 農、金	台風	農業次収穫で
	(19) 金、農	なし	
	(20) 農、金	健康	サルダ
	(21) 金	なし	
	(22) 金	なし	
	(23) 農、金、農、他	なし	
San Roque	(24) 農、金	妻死	借金
	(25) 農、金	なし	
	(26) 農、金、農	なし	
	(27) 金	なし	
	(28) 農、金、農	なし	
	(29) 農、農	なし	
	(1) 農	台風	砂金・血縁
	(2) 農	なし	
	(3) 農	na	na
	(4) 農、金	na	na
	(5) 農、金	na	na
	(6) 金	na	na
	(7) 農、金、O	na	na
	(8) 金	na	na
	(9) 金	na	na
	(10) 農、金	na	na
	(11) 金	na	na
	(12) 農、金	na	na
	(13) 農、金	na	na
	(14) 農、金	na	na
	(15) 農、金	天災	砂金
	(16) 農、金	na	na
	(17) 金	na	na
	(18) 農、金	na	na
	(19) 農、金	天災	砂金・豚肥育
	(20) 農、金	天災	砂金・農業
Kamangaan Resettlement Site	(21) 農、金、農	na	na
	(22) 金、農	なし	
	(23) 農、金	na	na
	(1) 農	なし	
San Bonifacio	(2) 農、金	なし	
	(3) 農、金	台風	砂金
	(4) 農、金	なし	
	(5) 金	なし	
	(6) 農、金	砂金とれない乾期	農業労働
	(7) 農、金、雇	台風	砂金
	(8) 農、金、他	台風	農業(野菜)
	(9) 農、金、農	台風	砂金
	(10) 農、金	台風	砂金
	(11) 金、他	なし	
San Bonifacio	(12) 農、金	台風病気	砂金・血縁
	(13) 農、金	病気	砂金
	(1) 農、雇	鉱山流出	企業からの補償金
	(2) 農	灌漑破壊	耐えた
	(3) 農、O	台風	O

注1. 色塗り枠は、調査しておらず

注2. 2002年では、アクシデントについて詳細に聞いているが、2003年の調査では、天災、経済不況、健康、その他の項目に分けている

注3. 農は農業、金は砂金採取、農は農業労働、雇は正規雇用、OはOCW、他はその他労働者のアンケート、ヒアリングより作成

(調査実施期間2003年3月、9月、2004年3月、9月)

こと、山の中での採取生活を厭わないこと、人の下で働くのを厭うこと（農地を自分で保有できるのであれば、農業をしたい）が挙げられている。先の例と異なり、彼ら／彼女らの多くは、砂金採取に誇りを持っており、誰にも指図（もしくは搾取）されず、仲の良い家族や仲間とできるやり甲斐のある仕事であると感じている。このような世帯は、乾期や渇水の際には、ポンプを用いて人工的に強い水の流れを作り、河原深くから掘り返した砂から幾分か砂金を採取する。ポンプ自体は10,000ペソと幾分高価であるが、前述のように4人前後のグループでポンプ1台を手に入れることは、それ程大変なことではない。加えて、金の仲買人の中には、ポンプを貸し出している者もいる。表10のヒアリングにおいて「なし」と回答した19世帯のうち、少なくとも9世帯は、砂金が採れなくとも、山中に生活の場を移し、自給用に動植物を採取するので問題はないと回答している²⁰。

砂金採取と農業とのリスク補完関係は、サルダという農地借用形態にも見ることができる。サルダは、資金と農地の流動性を高める手段として利用されており、返済さえ失敗しなければ、相互にリスクを軽減できる。そして、砂金採取という誰でも参入できる収入機会の存在は、借金の返済失敗可能性を大きく減じることとなる。

リスク克服において、砂金採取の持つ借金を容易化する機能は非常に重要である。砂金採取のように、収入に大きな差こそあるものの、一年を通していくらかなりとも現金収入が得られ、更に雨期、台風直後に巨額収入を可能とする機会が存在していることは、返済失敗のリスクを大きく減じることとなるため、借金を物理的側面（金貸しからの信用としての担保やこれまでの実績等）のみならず、精神的側面からも容易にする。これは、後述のプロジェクト前後での借金の変化に顕著に現れている。砂金採取の減少が、一方で生活苦による借金の増大を促し、他方で返済可能性の減少による借金依存の減少とその帰結としての農業投

入量の減少を促しているのである。

OCWは、リスクを克服する上で最も有効な生活手段である。海外で数年から十数年もの長期間労働し、家族に仕送りをするのみならず、帰国後に蓄えた資金で農地、トライシクル、サリサリ等の新たな生活手段を獲得し、更に家を増築する（自分の家よりも親の家に優先順位があるのが一般的）世帯が多い。また、選挙活動に費やす世帯もいる。自然災害や市場に左右されないのみならず、インフレとペソ減価が続く状況の下では、リスク軽減のみならず、家計向上にも大きく貢献している。

家畜もリスクを軽減する手段として重要な役割を担っている。周囲に有利な投資先が存在せず、高いインフレが続く環境で、最も容易でリスクの低い投資先となる。通常は、自給や市場への売却を通して、農業や砂金採取ほどではないにしろ、家計を助ける副収入として機能しているが、健康を害したり、OCW申請を試みたりするような急な高額出費を要する際には、重要な資金源となる。

多くの住民にとって最終的な選択手段として存在するのが、家政婦（Domestic Helper）および洗濯婦である。家政婦の場合、仕送りできるだけの収入を得ることは困難であり、実質的な口減らしと言える²¹。また、洗濯婦は、何件も掛け持ちできればある程度の収入になるが、多くの場合、貧困世帯を助けるために相対的に裕福な世帯（多くが親戚）が収入機会を提供しているに過ぎない²²。これらの生活手段は、貧困の象徴として認識されることが多く、自尊心を傷つけるため、よほど生活が困難にならない限り選択されることはない。

機会獲得機能

他方、機会の獲得に関しては、大きな制約が存

²⁰ ダムの建設によって、このような場所も水没してしまっている。

²¹ 花嫁修業の場合もあるので全てに当てはまるわけではない。

²² 子どもが生まれたり、OCWで家事労働が不足している場合に親戚が手伝いに来る場合もあるので、これも全てに当てはまるというわけではない。両手段ともに、その理由が重要になる。

在している。ヒアリングでは、1980年代までであれば、農地取得および拡大の機会が今現在よりも存在していたようである。砂金採取やOCW、そして借金—先述のように、砂金採取が借金の容易化を促進している点は重要である—がその媒介であった。しかし、フロンティアは既に失われてしまっている。相続に伴う農地の細分化も、近年限界に達しており、拡大し続ける余剰労働力の地域での受け皿は、専ら砂金採取であり、収入の面でかなり劣るが採取業（炭焼きや薪拾い、ベリー採取、コゴングラス採取等）もその一翼を担っていたと言える。その砂金採取も、やはり近年収入減少傾向に直面しているため、多くの住民の生活手段選好は、地域外雇用へと向いてきているようである。この結果、それまで軽視されてきた教育、特に高等教育の重要度が増してきている。そして、高等教育という中期的な出費の拡大を可能とするのは、ある程度安定的な余剰収入源の存在であるが、それを可能としているのが、先述のような生活手段の効率的な組み合わせに他ならない。この地域で非常に特徴的な例は、表7のサンフェリペイスト(3)である。この世帯は、夫を亡くしている女性と娘1人が砂金採取に従事しており、バギオの私立大学に通う長女をも養っている。この資金源は、母娘二人の砂金採取に加えて、十年以上前に従事したハワイでの出稼ぎ労働（母および長男）である。そして、この出稼ぎの申請を可能としたのが、砂金と親戚からの借金であった。更に遡るならば、親戚が容易に申請資金を貸してくれたのも、その親戚が砂金採取である程度安定的な収入を得ることができていたからだと言える²³。

調査地では、経済効果に限って言うならば²⁴、OCWが最も効果的な機会獲得手段である。OCW

経験世帯二十世帯余りに聞いてみた限りでは、OCWの申請に必要な資金の獲得に、直接、間接的に砂金採取が大きな役割を果たしている。砂金採取のみ、もしくは砂金採取によって支えられた農業から出た余剰収入、その蓄積としての家畜、そして借金の容易化が、教育や資金へのアクセス、ひいてはOCWへのアクセスを容易にしているのである。

以上、プロジェクト以前、サンニコラス町、サンマニエル町における分析対象世帯—このほとんどが被害世帯である—は、砂金採取、農業、農業労働、家畜、OCW、その他の生活手段を状況に応じて効果的に組み合わせることにより、高いリスク克服能力と、十分とは言えないまでも、ある程度の機会獲得能力とを有していたと言える。そして、これは、サンロケダムの建設目的のひとつである「洪水による下流部での深刻な被害」とは、大きくかけ離れたものとなっている。かなりの程度農業に特化した裕福な世帯や商業関係世帯、砂金に従事しない河口付近の住民には、そのような叙述は当てはまるかもしれないが、少なくとも最も被害を生じさせていると目されている両町のアグノ川流域の一般世帯には、全く当てはまらない。それどころか、収入の低い世帯程、農業に多くを依存しておらず、砂金採取に偏重しているため、洪水の発生を収入機会の増大として歓迎していると言える。

4-3. プロジェクト以降

表11は、表7における調査世帯のプロジェクト以降の生活手段の変化を示している。これを生活手段の増減で整理したものが表12である。一見して、生活の困窮化の傾向が見て取れる。

まず、単純に生活手段の数を見ると、喪失生活手段214、収入減少生活手段37に対して、新たに獲得した生活手段は131に過ぎない。また、喪失生活手段の内、生計を立てる上で主要な生活手段であったものは、175に上り、新たな生活手段で主要な収入源となり得るものは、運転手、OCW、2人での農業労働、農業（＝農地獲得）、NPCも

²³ しかし、プロジェクトによる砂金採取の喪失により、2003年の時点で娘も大学に通うのを止めた。

²⁴ フィリピンでは、近年、親がOCWで長期間不在にすることから生じる子どもの精神的な問題や家族の絆の問題が注目されるようになってきている。実際に少なくない人たちが家族と長期的に離れるのを嫌っているし、精神的な負担も大きい。したがって、OCWが包括的な意味で有効な生活手段であると一概に言うことはできない。

表11-A. サンニコラスにおけるアンケート対象世帯の生活手段(現在)

	世帯 人数	耕作		生産物		その他		砂金採取		家畜		その他仕事	
		ha	分	ha	分	ha	分	頭	頭	頭	頭	頭	頭
Cabulocan	(1)	4	0.4	2	分	コーン	0.4	15					
	(2)	3	1.5	2	分	コーン	1.5	5		8			メイド*2
	(3)	6											農業労働*2
	(4)	4											OCW
	(5)	4	0.4	2	分								OCW
	(6)	6	1.5	3	分					2		1	ハラシキヤフテン OCW OCW
	(7)	4	0.7	2	分	野菜	0.5						
	(8)	4	0.5	3	分	コーン	2						
	(9)	6	0.5	1	分	コーン	0.5	5	6	1			SRPC
	(10)	7											クニードライバー 農業労働*2
	(11)	7	0.33	2	分	コーン	0.33						農業労働*2
	(12)	4	1	2	分	コーン	1						
	(13)	8	n.a	n.a	n.a								農業労働 大工
	(14)	n.a	0.4	2	分	コーン	0.4			沢山 沢山 2			カガワット トラインクル
Dalumpinas	(1)	6				不規則的小作							農業労働*2 家政婦
	(2)	5	2	2	分								農業労働
	(3)	10	0.4	2	分								大工
	(4)	9											農業労働*3
	(5)	4											農業労働 家政婦
San Felipe East	(1)	9	0.25	2	分	定				2		2	農業労働
	(2)	4								24		2	サリサリ
	(3)	2											洗濯機
	(4)	3											マニニヤ塗り 塗料/農機具
	(5)	4	0.5	2	分								漁業
	(6)	4	n.a	1	分	コーン	n.a						農業労働
	(7)	8											農業労働
	(8)	5	n.a	1	分								農業労働
	(9)	5	0.5	2	分								農業労働
	(10)	6	1	2	分					10			洗濯機
	(11)	6	n.a	2	分					沢山			
San Felipe West	(1)	7	0.5	2	分	サルダ		50					トラインクル
	(2)	3	0.6	3	分			23		1		30	車人牛車
	(3)	5											
	(4)	5						40			20		ハラシキヤフテン
	(5)	7											OCW
	(6)	4	1	2	分	※1							農業労働
	(7)	3						6					トラインクル
Lagpan Resettlement Site	(1)	6	0.4	2	分	サルダ		6					サリサリ
	(2)	3						5	7		19	2	SRPC
	(3)	3						15		1			SRPC
	(4)	4						10					SRPC
	(5)	4	0.4	3	分			2				1	農業労働
	(6)	5	1	2	分	サルダ							
	(7)	6											農業労働 SRPC
	(8)	8						29	2				
	(9)	6						6				2	SRPC
	(10)	7	1	1	分			17	6				クニードライバー
	(11)	7											農業労働
Salpad	(1)	n.a											
	(2)	n.a											漁業/薪拾い
	(3)	7	0.5	2	分							1	
	(4)	8	0.25	2	分			5				1	
	(5)	6											農業労働*2
	(6)	4	0.5	2	分								農業労働
	(7)	8											農業労働
San Isidro	(1)	12	1	2	分	息子に譲渡				10			農業労働 お菓子売り
	(2)	7	0.5	2	分								農業労働
	(3)	7	2	2	分							1	洗濯機
	(4)	9	2	2	分								
	(5)	3	0.5	2	分								
	(6)	3	0.5	2	分								
	(7)	3	息子に譲渡										農業労働
	(8)	5	0.5	2	分					1		1	
	(9)	7	1	2	分								OCW*2
	(10)	3											教師
	(11)	4	2	2	分							1	農業労働 洗濯機
San Rafael West	(1)	7	0.5	3	分			2			5	1	農業労働
	(2)	5	0.5	3	分			10					
	(3)	6	0.5	3	分			10		3	1	1	
	(4)	9	1.5	3	分								
Sto. Tomas	(1)	9	0	0	分								
	(2)	8	0.5	3	分			8			2	1	OCW サリサリ トラインクル
Bensican	(1)	2											コーン/薪拾い
	(2)	3											コーン/薪拾い
	(3)	2											コーン/薪拾い
	(4)	n.a	0.5	1	分	定							コゴングラス採取
	(5)	6	3	1	分	定							トラインクル
	(6)	10	1	1	分	定						1	コーン/薪拾い
	(7)	3	0.5	1	分	定							薪拾い
	(8)	4	0.5	1	分	定							薪拾い/農機具
	(9)												薪拾い/ヘリー採取 農業労働 コゴングラス採取 薪拾い 牛飼育

注1: 世帯番号において、普通の数値※(1)は2002年3月の調査、アンダーラインのついたもの※(2)は2002年9月の調査、斜体数字※(3)は2003年3月の調査、アンダーラインのついた斜体数字※(4)は2003年9月の調査によるデータを示す
 注2: 所有は土地所有形態を示しており、○は自己所有地、定は定期小作、分は分益小作を指す
 注3: サルダとは、無利子でお金を貸すかわりに、ある一定期間土地利用権(小作料なし)を得る契約方法である
 注4: SRPCは、サンロケダム建設のための雇用を指す
 注5: その他仕事において、OCWは海外出稼ぎ労働(Overseas Contract Work)、サリサリは自宅軒先で営む雑貨屋、カガワットは、選挙で選出される(パンガイ委員、ハラシキヤフテン)はその点、トラインクルはサイドカー付きの客載セオートバイ、ジブニーは二十人程度乗れる乗り合いバス、コゴングラスは屋根に利用する草を指す
 注6: 色塗り枠は、建設によって収入を減少させたものを指す

表11-B. サンマニエルにおけるアンケート対象世帯の生活手段(現在)

[illegible]

注1: 世界遺産において、普通通の字(※)は2002年3月の調査、アンダーラインの字(※2)は2002年9月の調査、斜体数字(※3)は2003年3月の調査、アンダーラインの斜体数字(※4)は2003年9月の調査によるデータを示す

注2: 所有は土地所有形態を示すであり、自己所有地、定は定期小作、分は分益小作を得る

注3: 全地区は、無知でお金を貸すかわりに、ある一定期間土地利用権(小作料なし)を得る契約方法である

注4: SRPCは、サンケム建設のための雇い労働

注5: その他仕事において、OGWは海外出稼労働(*Overseas Contract Work*)、サリサリは自宅軒先で営む雑貨屋、カフワットは、選挙で選出されるランガ(委員)、パナガイキヤテンはそれと、トイリヤテンはハイドカーブ型の客載セオートバイク、ジュービーは二十人乗乗れる乗客バス、ゴシヤテンは屋根に利用する草を指す

注6: 色塗りされた、施設によって取入乗客が減少せしめを指す

注7: 点塗りつ、は、建設を契機とした増大を指す

重要なアンケートにより作成

表12. プロジェクト前後での生活手段の転換

バランガイ	主要生活手段	喪失生活手段	収入減少生活手段	新たに獲得した生活手段
Cabuloan	(1) 農、金	金	家畜	
	(2) 農	金		
	(3) 金、農、雇	金、雇		農
	(4) 〇			
	(5) 農、金、〇	金	家畜	〇*2
	(6) 農	金、家畜	農(米・コーン)	
	(7) 農、金	金		SFPC
	(8) 農、金	金		ジブニードライバー
	(9) 農、金	金		農*2、洗濯機
	(10) 農、金、農	金		
	(11) 農、金	金		
	(12) 農、金、農	金		
	(13) 農、金、農、他	金		
	(14) 農、金	金		トライシクル
Dalumpinas	(1) 金、農	金		家政婦
	(2) 農、金	金		
	(3) 農、金、農	金		
	(4) 金、農、他	金		
	(5) 金、農	金		家政婦
San Felipe East	(1) 金	金	家畜	
	(2) 金、農	金		
	(3) 金	金		サリサリ
	(4) 金、農	金、農		漁業(貯水池)、炭焼き、洗濯機、ミニキュア塗り
	(5) 農、金	金		漁業(貯水池)
	(6) 農、金	金	家畜	
	(7) 金、農	金		漁業(貯水池)
	(8) 農、金、農	金		
	(9) 農、金、農	金		
	(10) 農、金、農	金、農		洗濯機、家畜
	(11) 農、金	金		家畜
San Felipe West	(1) 農		農、家畜	トライシクル
	(2) 農、他		農	
	(3) 農	農、家畜		
	(4) 金	カガフット、金		家畜、バランガイキャプテン
	(5) 金、農	金、家畜		〇
	(6) 農、金	金、家畜		トライシクル
Lagan Resettlement Site (San Felipe West内、以前はSan Felipe West内のシティ・プランギットに居住)	(1) 農、金	農、金	家畜	サリサリ
	(2) 農、金	金	家畜	SFPC
	(3) 農、金、〇	農、金	家畜	SFPC
	(4) 金、農、他	金、大工		SFPC
	(5) 農、金	金	農、家畜	
	(6) 農、金	農、金		農
	(7) 農、金	農、金、家畜		農、SFPC
	(8) 金	農、金	家畜	
	(9) 農、金	農、金	家畜	SFPC
	(10) 農、金、金仲買	金	家畜	ジブニードライバー
	(11) 金、農	金、家畜		
	(12) 金、農	金、家畜、農		
	(13) 農、金	農、金、家畜		漁業(貯水池)、薪拾い
Salpad	(1) 農、金	金		
	(2) 農、金	金	農	
	(3) 金、農	金		農
	(4) 金、農	金		
	(5) 農、金	金、家畜		
San Isidro	(1) 農、金	金		
	(2) 農、金、農	金		お菓子売り
	(3) 農、金、農、他	金		洗濯機
	(4) 農、金	金		
	(5) 農、金	金		農
	(6) 金、農	金、農		農
	(7) 農、金	金		農
	(8) 農、金	金		
	(9) 農、金	金		〇*2、技師
	(10) 金	金		洗濯機、農
	(11) 農、金	金		
	(12) 金、農	金		
	(13) 金、農	金		
San Rafael West	(1) 農、金	金		
	(2) 農、金	金		
	(3) 農、金	金		
Sto. Tomas	(1) 農、金	金		
	(2) 農、金、〇	金、〇		サリサリ、トライシクル
Bensican	(1) 金、農	金、農	家畜	コーン・落穂拾い
	(2) 金、農	金、農	家畜	コーン・落穂拾い
	(3) 金、農	金、農	家畜	コーン・落穂拾い
	(4) 金、農	金、農	家畜	農、コングラス
	(5) 農、金	金	家畜	トライシクル
	(6) 農、金、農	金、農		コーン・落穂拾い、薪拾い
	(7) 農、金	金		薪拾い、炭焼き
	(8) 農、金、農	金		家畜
	(9) 金	農、金		牛飼育員

バランガイ	主要生活手段	喪失生活手段	収入減少生活手段	新たに獲得した生活手段
Narra	(1) 農、金	金		家畜
	(2) 農、金	金	農	
	(3) 農、金、〇	農、金	家畜	カガフット
	(4) 金	金		
	(5) 金	金	農、家畜	
	(6) 金、〇	金、〇		トラック運送、ブロック製作
	(7) 金、〇	金		家畜、サリサリ
	(8) 金、〇	金		
	(9) 農、金	金、家畜		農、〇
	(10) 農	金		
	(11) 農、金	金	家畜	トライシクル
	(12) 金、〇	金、〇		家畜、不定期大工
	(13) 金、〇	金、〇	家畜	SFPC
	(14) 農、金	金		SFPC
	(15) 農、金	農、金		SFPC、農
	(16) 金	金		
	(17) 金	農、金		家畜
	(18) 農、金	金		
	(19) 金、農	農、金	家畜	家政婦
	(20) 農、金	金		農
	(21) 金	金		
	(22) 金	金		農*2
	(23) 農、金、農、他	金		農
	(24) 金	金		
	(25) 農、金	金		トライシクル、SFPC
	(26) 農、金、農	金		家畜
	(27) 金	金、農		農、SFPC、トライシクル
	(28) 農、金、農	金		
	(29) 農、農			家畜
San Roque	(1) 農	金		
	(2) 農	金		
	(3) 農	金、家畜		SFPC
	(4) 農、金	農、金、家畜		SFPC
	(5) 農、金	農、金		トライシクル
	(6) 金	金、サリサリ		スクラップ収集
		家畜、炭焼き		
	(7) 農、金、〇	農、金、〇		漁業(貯水池)
	(8) 金	金		漁業(貯水池)
	(9) 金	農、金、家畜		SFPC契約社員
	(10) 農、金	農、金		小売店
	(11) 金	金、家畜		
	(12) 農、金	農、金		スクラップ収集、コーン・落穂拾い
	(13) 農、金	農、金		SFPC契約社員
	(14) 農、金	農、金		
	(15) 農、金	農、金		家畜、NPC契約社員
	(16) 農、金	農、金		
	(17) 金	金		
	(18) 農、金	農、金		
	(19) 農、金	農、金		漁業(貯水池)、コーン・落穂拾い、貝拾い、スクラップ収集
Kamangan Resettlement Site	(20) 農、金	金	農	食品販売、運送、家政婦
	(21) 農、金、農	農、金		スクラップ収集
	(22) 金、農	金		スクラップ収集
	(23) 農、金			
	(1) 農	農、金		農*2
	(2) 農、金	農、金、サリサリ	家畜	
	(3) 農、金	金、家畜	農	
	(4) 農、金	金	農	SFPC*2
	(5) 金	金		
	(6) 農、金	農、金	家畜	サリサリ
	(7) 農、金、雇	農、金		SFPC
	(8) 農、金、他	金、大工	家畜	
	(9) 農、金、農	農、金、家畜		SFPC
		農		
San Bonifacio	(10) 農、金	農、金		〇
	(11) 金、他	金	家畜	SFPC、サリサリ
	(12) 農、金	金	農、家畜	SFPC
	(13) 農、金	金、家畜		不定期大工
	(1) 農、雇	議員(宿務)		家畜
	(2) 農			SFPC契約社員*2
	(3) 農、〇			バランガイキャプテン、カガフット

注1. 農は農業、金は砂金採取、農は農業労働、雇は正規雇用、〇はOOW、他はその他労働を示す。また、主要生活手段の項目以外では、その他雇用ではなく、職歴を記載。

注2. SFPCIは建設に伴う一時的な雇用。SFPC契約社員は、建設とは関係なくSFPCIに雇用され、6ヶ月毎に契約を更新する雇用形態。

注3. 色塗りは、プロジェクト前後での生活水準の高い方を示している。色塗りのみ、世帯は変化があまり顕著でないと思われる世帯、SFPCIは一時的な収入なので考慮に入れない。

筆者のアンケート、ヒアリングより作成

しくはSRPC契約社員、技師、貯水池での漁業、スクラップ収集、ブロック製作・運送であり、総数で27に過ぎない。

世帯別に見ると、プロジェクト後に生活を改善させた世帯は5世帯のみであり、大きな変化のない世帯が8世帯、それ以外の132世帯は生活水準を著しく低下させている。生活手段の転換先は、農業労働が10世帯で最も多く、つづいて貯水池で網と小舟を用いてティラピアや鯉を獲る漁業が7世帯、トライシクル7世帯、コーン・落ち穂拾い6世帯、家畜6世帯、OCW5世帯、洗濯婦5世帯、スクラップ収集5世帯、家政婦4世帯となっている。

a. 生活手段

建設労働

実際の表中ではダム建設労働（表中のSRPC）が17世帯と最も多い。更に、ラグパン移転地を含むサンフェリペ・ウェスト、サンフェリペ・イースト、カマンガン移転地を含むサンロケ、ナラといった直接被害地域では、調査対象世帯のほとんどが期間の差こそあれ、建設労働に携わっている。雇用存在時には、住民にとって一日180～250ペソの収入は非常に魅力的なものであった。表からは、以前、不定期的な大工や建設労働、農業労働に従事していた世帯が、建設労働を優先にしていることを見て取れる。しかし、これは建設期間のみの一時的なものであり、現在は存在していない。

農業労働

農業労働については、既に説明したが、プロジェクトに伴う農業労働の需給バランスの変化が、農業労働環境を厳しいものとしている。農業労働は、参入障壁が非常に低い。このため、多くの世帯が喪失した収入を補完する代替手段として農業労働への従事を強めようとしている。しかし、プロジェクトに伴う農地の減少、干ばつによる収穫減少、農業労働希望者の増大が、農業労働獲得競争を厳しいものとしている。その結果、例えばサンフェリペ・イースト（10）、ラグパン（12）、サンシンドロ（6）、ベンシカン（1）～（4）（6）では、逆に農業労働から排除されている。一般的に、親族およ

び農業労働の専門集団が優先的に農業労働を得られる傾向が見られる。また、表には出てこないが、新たに農業労働にアクセスしたくてもできない世帯は、それ以上に多いものと思われる。そして、農業労働に従事している世帯も、平均的な従事日数は軒並み減少しており、年間従事日数に関しては多くの世帯で半分近くにまで落ち込んでいる。

漁業

貯水池での漁業は、8人程度のグループ作業の形態をとっている。夕方に出発し、夜中を徹して網で魚を採り、早朝に帰宅して市場に売却する。貯水池のできるだけ近くまで皆と道具を運ぶトライシクル所有者、モーター付小船所有者、魚網所有者、未使用時（日中）の船の見張り、そして漁業従事者である。1人で二役を演じる場合もあれば、労働者が数人いる場合もあるが、基本的に漁獲量は役割人数で等分される。したがって、もし小船所有者が漁業にも従事するならば、その人は2人分の利益分配を受けることができる。2002年の時点では、まだある程度の収入を得ることができたようであるが、2003年に入るとかなりの人数が従事するようになったため、収益はかなり減少している。2003年9月時点で200人程度が従事していた²⁵。魚種はティラピア、鯉、なまずで、1日10-20kg程度。ガソリン代等の消耗品を抜くと、1人当たり100ペソ／日前後。

参入条件として、船と網の所有者が必要不可欠であり、中古の船で20,000ペソ強、網が1ネットで1,000ペソ（大体2～4ネット必要）である。補償を利用して参入している世帯が多いように感じるが、貯水池での漁業は2004年初めまでNPCによって禁止されており、見つければ没収される可能性もあった中での操業であった。しかし、水質調査の結果が良好であったため、現在、禁止は解かれている。

²⁵ 2004年3月の時点でSRPCが把握しているボートの数は36。

²⁶ そもそもサンロケダムは、上流の鉱山廃水浄化を主要目的としているため、貯水池の水が重金属やシアン化物で汚染されていることが前提となっている。

トライシクル

トライシクルは、バイクにサイドカーを取り付けたものであり、人や荷物の運搬を行う。少なくとも調査では、新たにトライシクル業に参入する世帯の全てにおいて、トライシクル従事者は20歳前後の若い男性であった。収入は1日に運が良くて200ペソ弱。未熟な運転技術に加えて、舗装されていない道路での運転はバイクの劣化を早めており、トライシクルの年間登録料も3000ペソに値上げされている。更に、トライシクルの収入への低い期待と、おそらく若さ故に、ほとんどハウスユーズと化しているものも少なくない²⁷。

コーン・落ち穂拾い

コーン・落ち穂拾いは、取り残して芯に付着しているコーンや収穫後の刈り残した稲穂を拾うものであり、少なくともプロジェクト以前にほとんど見られることのなかった生活手段である。貧困の象徴としての意味合いが強く、生活がよほど苦しくならない限り、普通は従事しない。しかし、建設労働喪失以後、このような生活手段に従事する世帯が急増しており、この分野でも競争が激化してきている。ベンシカン(1)(2)(3)では、既に60歳を越していると見られる高齢者たちが、歩いて1時間以上かけて隣のバランガイまでコーンや落ち穂を拾いに行っている。収入は、収穫時の一時的なものであるが、週に300ペソ程度。コーンであれば、市場に売り、米であれば自給用にする。

家畜

家畜としては、豚や鶏を増大させている世帯が幾分存在するが、しかし、収益は前述のようにほとんどあがらず、副収入を幾分増加させるに過ぎない。また、相対的に収入の良い牛に関しては、ダムによるエサ場の喪失がインセンティブを大きく失わせている。

²⁷ 若者のトライシクルに関しては、収入源というよりも、職業訓練といった意味合いの方が強いように感じる。

OCW

最も生活手段の創出に成功している世帯が、このOCW獲得世帯と言える。しかし、自分の得た補償金のみならず、親族の得た補償金をも資金源とし、家畜を売り払い、できる限りの借金をすることによって、OCWへの切符を手にする世帯は、非常に少ない。

洗濯婦

洗濯婦は、先述ように、コーン・落ち穂拾いや家政婦と同様、貧困化の象徴と言える。近所や親戚の家1軒の洗い物で150ペソ程度。数軒をかけもてれば、その分収入は増えるが、それ程収入機会もない。

スクラップ収集

スクラップ収集は、プロジェクト以降に新しく出現した収入機会であり、サイトに隣接しているサンマニュエル町で増加している。ボンベとガスバーナーを車に積み、ダム建設現場に投げ捨てられている金属スクラップを持ち運び可能なサイズに切断し、近隣のアシンガン町のジャンクショップで売却する。収入は2003年9月の時点で1日100-200ペソ程度。SRPCに無断で行っているため、違法である。また、夜間にスクラップを拾うためにSRPC敷地内に忍び込んだ住民がガードマンによって射殺される事件も起きている。その後、SRPCはスクラップの収集に対して見て見ぬ振りをしている。ガードマンによっては、無断進入の手助けをする代わりにマージンを要求する者もある。

家政婦

乱暴な言い方をするならば、家政婦は、口減らしである。仕事内容や能力にもよりけりであるが、多くの場合、収入の足しにはならない。

その他

薪拾いや炭焼き、コゴングラス採取は、アンケート時に生活手段として見なしていなかった世帯もあったようで、十分に数として表に反映されてい

ない。おそらく、農業労働と同じくらいかそれ以上に多いものと思われる。しかし、収入は非常に低く、1日数十ペソ程度。競争も激しくなっており、収入減に加えて、採取場所も遠距離化している。実際には、公共地において木材の採取が法的に認められているのは、枯れ木や廃材、流木等であり、生きた木の伐採は、剪定以外、基本的に禁止されている。しかし、資源の枯渇化が、違法行為を助長してしまっている。

マニキュア塗りは、近所の女性にマニキュアを塗るものであり、ある程度の技術と初期投資として数百ペソ（マニキュアボトル）を要する。人気が高くなれば、1日で100ペソ以上を得ることもできる。しかし、未だに資金的に余裕のある一部のラグパン移転地住民の中でのみ可能な仕事とも言える。おそらくサンニコラスではことと中心部を除いて成り立たない。

大工

砂金採取を除けば、プロジェクトを契機として、著しく収入を減少させている生活手段の第一は大工である。プロジェクト以前、大工仕事として請け負っていた仕事の多くは、時間と労力をかけて、なおかつ見栄えをあまり気にしないのであれば、多くの成人男性のこなせる内容に過ぎなかった。プロジェクト以降の地域的な現金収入の減少は、このような仕事の委託を著しく減少させている。

b. 借金

表には示されていないが、農業も収穫量および収入を減少させていることは間違いない。これは、渇水や洪水被害に加えて、砂金採取の喪失に伴う借金能力の減少によるところが大きい。表13はプロジェクト以降の借金の変化を示したものである。調査対象世帯のほとんどが、2つの傾向を示している。ここで注意が必要なのは、その内の1つ、借金縮小世帯の縮小理由についてである。これら世帯は例外なく、農業投入の減少をその理由としている。砂金採取という農業従事世帯にとってのセーフティネットが失われたことで、借金返済リスクが増大し、農業投入量の自発的な抑制を選択

させているのである。

表13のもう1つの傾向は、借金増大世帯についてである。これら世帯の多くは、借金を日常的な消費に当てている。これまでのように、「早朝借りて午後に砂金採取をして返す」ことができなくなり、一時的な借金が恒常的、累積的な借金へと転換している。

ナラ(2)は、借金の問題を顕著に示している。この世帯は、家族の病気治療のために資金が必要となり、プロジェクト開始後にサルダの契約を結んだ。しかし、砂金採取の喪失から期限内に借金を返済できず、農地を失ってしまったのである。

農業のような高額ではなく、日常的な少額での借金需要の高まりに伴い、個人的な金貸し業の増大とそれらへの依存世帯も急増している。調査では、ラグパンやそれ以外のサンフェリペ・ウェスト、イーストで新たな金貸し業の出現が確認されている。インフォーマルな部門であるため、把握は不可能であるが、この3つのバランガイの例一多額の補償金獲得世帯が金貸しになっている一が一般的であるならば、ナラやサンロケ、特にカマンガアン、その周辺で増大している可能性が高い。これら3つのバランガイでは、金額の大小にかかわらず、倍返しが基本になっている。

また、借金増大世帯の一部は、OCW への初期投資に当てており、積極的な生活手段転換を促している。

c. 移転地における生活費の増大

ラグパンおよびカマンガアンの移転地では、新たな生活手段への転換が進まない中、電気料金、水道料金、市場への移動費、野菜・果物類の購入費という必要経費の出現が、生活の困窮化を助長している。料金が支払えなくなったために水道を何度か止められている世帯もあり、電気に関してもを既に止められている世帯も少なくない。これまでは裏庭で自給用の野菜や果物を栽培していたものも、市場で購入しなければならなくなった。豚や魚も同様である。また、市場への依存の高まりは、市場への頻繁な往来を必要とするが、特にラグパンで移動代金が高額な出費と化している。

表13. 建設前後での借金の变化

サンニコラス				サンマヌエル			
バランガイ	借金	バランガイ	借金	バランガイ	借金	バランガイ	借金
Cabuloan	(1) 同	Salpad	(1) 有	Narra	(1) 増	San Roque	(7) 増
	(2) 同		(2) 有		(2) 激減		(8) n.a
	(3) 微増		(3) 有		(3) 激減		(9) n.a
	(4) 同		(4) 有		(4) 減		(10) 同
	(5) 増		(5) 増		(5) 同		(11) 同
	(6) 減	San Isidro	(1) 減		(6) 激増		(12) 有
	(7) 同		(2) 激増		(7) 減		(13) 有
	(8) 同		(3) 増		(8) 同		(14) n.a
	(9) 増		(4) 有		(9) 激増		(15) 同
	(10) 増		(5) 有		(10) 激増		(16) 同
	(11) 同		(6) 有		(11) 同		(17) 増
	(12) 増		(7) 激増		(12) 激増		(18) 有
	(13) n.a		(8) 有		(13) 激減		(19) 同
	(14) 減		(9) 有		(14) 激増		(20) 増
Dalumpinas	(1) 増		(10) 有		(15) 同		(21) 有
	(2) 有		(11) 有		(16) 激増		(22) 同
	(3) 有		(12) 有		(17) 激増		(23) n.a
	(4) 有	San Rafael West	(13) 増		(18) 増	Kamangaan Resettlement Site	(1) 微減
	(5) 有		(1) 同		(19) 激増		(2) 激増
San Felipe East	(1) 激増		(2) 減		(20) 同		(3) 同
	(2) 増	Sto. Tomas	(3) 増		(21) 激増		(4) 微増
	(3) 増		(1) 激増		(22) 激増		(5) 微増
	(4) 増	Bensican	(2) 増		(23) 同		(6) 増
	(5) 有		(1) 増		(24) 激増		(7) 激増
	(6) 有		(2) 増		(25) 増		(8) 増
	(7) 減		(3) 増		(26) 激増		(9) 同
	(8) 減		(4) 増		(27) 増		(10) 同
	(9) 増		(5) 増		(28) 有		(11) 微増
	(10) 増		(6) 増		(29) 有		(12) 激増
	(11) 同		(7) 増	San Roque	(1) 減		(13) 激増
San Felipe West	(1) 同		(8) 増		(2) 同	San Bonifacio	(1) 同
	(2) 同		(9) 増		(3) n.a		(2) 同
	(3) 激増				(4) n.a		(3) 同
	(4) 同				(5) n.a		
	(5) 激増				(6) n.a		
	(6) 同						
Lagpan Resettlement Site (San Felipe West 内。以前はSan Felipe West内の シティオ・ブランキ ットに居住)	(1) 激増						
	(2) 同						
	(3) 激増						
	(4) 微減						
	(5) 同						
	(6) n.a						
	(7) 激増						
	(8) 同						
	(9) 増						
	(10) 激増						
	(11) 増						
	(12) 増						
	(13) 増						

注1: 微増・減は1,000ペソ未満の変化、激増・減は10,000ペソ以上の変化、増・減はその中間の金額の変化を示す

注2: 色塗りは建設を契機とした変化

注3: 有もしくは無はプロジェクトに関連した借金の増大の有無であり、その金額についての回答のないもの

注4: 同で色塗りは、借金額は同様でも、生活手段への投入量の減少および日用品への借金増加という生活の質的悪化を生じさせている世帯を示す

筆者のアンケートより作成

d. その他

特に、生活の困窮化の著しい移転地において、盗難事件の多発とコミュニティの分裂が見受けられる。ラグバン移転地の多くは、シティオ・ブランギット出身者であり、非常に親しい関係であった。相互扶助や一時的な金の貸借も頻繁に行われていたが、2003年3月の時点では、獲得補償金の額への嫉妬や土地所有権争い、貧富の格差の拡大が、コミュニティ内の関係を一部破壊してきた結果、相互扶助は一部の近い親族との間のみに限定され、互いに敬遠し合う世帯ができ、親族同士での金の貸借にまで倍返しの一部適用されるようになってきている。

また、カマンガアンでは、盗難が多発するようになってきており、治安への懸念も強くなってきている。

加えて、サンフェリペ・ウェスト内において、多額の補償金を獲得しているラグバンの住民に対する誤解や嫉妬も強くなっているように見受けられ、外部からの孤立化も進行している。

移転地での生活の悪化は、補償として獲得した家屋の販売を促進している。本来、移転地に5年以上住み続けなければ、家屋の所有権を手に入れることができない契約になっているが、それ以前に多くの世帯—2003年3月の時点での移転地内での記録では、80世帯、しかし2004年3月のSRPCからの回答では50世帯—が、既に他人に売却している²⁸。筆者のインタビューした3世帯は、その理由を生活手段の喪失としているが、SRPCの調査²⁹では、それ以外にも、親族と一緒に住むためや積極的な利益獲得という理由も挙がっている。

生活水準の悪化は、教育にも大きな影響を及ぼしている。高等教育を諦めざるを得なくなった世帯が、調査対象の中でも5世帯出てきている。小

²⁸ 販売先の多くは、親族である。土地と家屋に対する所有証明書を獲得する以前での契約となっているため、売買には高いリスクが伴う。そのため親族への販売が主流になっているのであろう。2004年から多くの住民が所有権を獲得し始める。こうなると、おそらく外部の業者が積極的に家屋販売に参入してくるものと予想される。

²⁹ 調査日。調査結果についての公開をSRPCに求めているが、今のところその気配はない。

学校についても、義務教育とはいえ、実験費や公共光熱費、その他道具代金等、必要経費を負担に感じている世帯もあり、ラグバンで1世帯が小学校に子どもを行かせるのを止めてしまっている。

e. リスク管理機能と機会獲得機能

前述のように（表12）、収入機会については、調査対象149世帯中、136世帯が大きく低下させている。これは、砂金採取の喪失、農業等に対する補償金の有効投資先不足、過剰労働力のバッファーとして機能していた生活手段—農業労働、薪拾い、炭焼き、コーン・落穂拾い等—の飽和（＝競争激化）と収益減少、借金能力の低下を主な理由としている。加えて、移転地では生活必要経費の増加が生活の困窮化に更に拍車をかけている。

収入総額およびリスク回避の両面での機能の低下は、多くの世帯を違法行為（＝モラルハザード）へと駆り立てており、またコミュニティ内および外部との摩擦を生じさせてもきている。

サンニコラス町、サンマニュエル町の両町において、全体的に生活の困窮化が急速に進行してきていることは間違いなく、少なくとも現在のところ、生活の向上どころか、生活水準の悪化を生じさせてきている。この問題は、個々の世帯の生活の困窮化のみにとどまらず、コミュニティの有していたリスク管理機能、機会獲得機能の著しい低下という住民の生活を支えるコミュニティの能力自体の弱体化を生じさせていると言える。

5. 補償システム

プロジェクトによって農地の一部もしくは全てを喪失させた世帯、移転世帯に対しては、私有財産への補償に加え、新たな生活手段への転換を助けるために、生活手段創出プログラム（Livelihood Project／以下、LP）が当初はNPCによって、後にSRPCも積極的に参加することによって提供されている。この補償によって、これまでと同様もしくはそれ以上の生活レベルが保証されているが、現状は上述の通りである。これは、NPC、SRPCの提供する補償システムが十分に機能していないことを示している。

5-1. 補償対象と方法

当初、補償対象として認識されていたのは、農地、居住地、その他私有財産を喪失した世帯、農地喪失に伴い小作権を喪失した世帯であった。また、2002年には、建設に伴う灌漑用水不足に対して、被害農産物の金銭補償が行われている。

a. 移転補償

移転対象世帯に対しては、1995年に RAP (Resettlement Action Plan) が作成され、実施に移されている。移転世帯には、自分で移転先を探し、購入する自己移転 (Self Relocation) と用意された土地と家屋への移転 (4つの移転地) という2つの選択肢がある。自己移転については、土地および家屋への評価額に沿った補償金が支払われ、移転補助金 (Financial Assistance) として17,000ペソが提供される。移転地への移転世帯に対しては、33平方メートルの家屋と200平方メートルの土地が移転地内に用意される。この土地および家屋の所有権は、移転後5年間住み続けた世帯にのみ、譲渡されることとなっている。どちらの移転世帯にも、迷惑料 (Disturbance Compensation) として7,500ペソ (60日間の最低賃金分) が支払われる。

b. 農地・果樹地

農地に関しては、規定の農地評価基準 (灌漑農地50ペソ/平方メートル、非灌漑農地35ペソ/平方メートル、荒地8ペソ/平方メートル) によって計算された補償金額に加えて、2年分の農業収益が迷惑料 (Disturbance Compensation) として支払われる。また、果樹についても、各々の評価基準によって計算された金額と果樹地8ペソ/平方メートルが支払われる。

c. 建設労働

新たな生活手段への移行期間である建設期間 (1998年2月から2003年5月) においては、被害世帯に対して建設労働が優先的に与えられる。労働者の選定に関しては、建設業者のレイセオンと

契約を結んだいくつかのコントラクターが仲介となり、必要に応じた労働者を手配する。事前に住民に対する説明は行われていなかったが、建設労働250ペソ前後/日は高卒以上に対して開かれており、その要件を満たさない者に対しては、それに付随する仕事 (貯水池のクリアリングや植林等) 180ペソ/日が用意された。

d. 生活手段創出プログラム

LPは、建設開始よりも1年早く、1997年に開始されている。LPは以下のプロセスで実施される。

1. NPCがフィリピン開発銀行にプロジェクトのための基金を創設
2. 地方政府の支援の下、被害住民が組合を組織し、NPCの名簿に登録する
3. 組合がプロジェクト内容を選定し、NPCによって提供される訓練を受けた後に、プロジェクト企画書をNPCに提出する
4. NPCの審査を経た後にプロジェクトが承認される
5. スケジュールに沿って資金が開発銀行から貸し出され、地方政府の監視の下でプロジェクトを実施する
6. スケジュールに沿って、開発銀行に資金の返済を行っていくが、この返済された資金は、生活補償完了後、将来的に地方政府によって地域発展に利用される

上記のプロセスに従って、数多くのプロジェクトが実施されたが (表3)、後述のようにこれらは失敗した。その後を受けて、2002年から SRPC が積極的に新たな生活手段創出プロジェクトに参加するようになる。プロジェクトの異なる点は、SRPC による監視の強化、地域開発や農業の若手専門家を起用した各プロジェクトの再構築と実施、SRPC による販売経路の提供である。「まだ開始したばかりで、… (中略) …これから徐々に拡大していく」³⁰ 途上である現在の段階でのプロジェクトは、表14の通り。

表14 SRPCの支援の下で新たに実施もしくは修正されたプロジェクト

プロジェクト	ロケーション	内容	参加世帯
養豚プロジェクト	カマンガアン移転地(サンマニュエル)	養豚	37
小規模金融プロジェクト	"	移転地内での出店他 山羊の肥育 鶏の肥育	28 19 21
マッシュルーム プロジェクト	"	マッシュルーム栽培	2
ラグパン シェルター プロジェクト	ラグパン移転地(サンニコラス)	豚の肥育	22
バックヤオ コントラクト	ダムサイト	ダムサイトでの不定期雇用 ※草の下刈や排水路整備等	n.a
ハンディクラフト プロジェクト	ダムサイト	ビーズ製品、布製品の製作	15
農業製品供給組合プロジェクト	ナラ(サンマニュエル)	豚肥育のための農業品供給ストア	53
小規模金融プロジェクト	ナラ(サンマニュエル)	サリサリストアー出店等	11
利益世帯計			208

2004年3月でのSRPCへのインタビューより作成

5-2. 補償のほころび

a. 補償対象からの排除

ここでは千世帯以上にのぼる砂金採取世帯が含まれていない。河川、河原という公共地を利用しており、ほとんどの砂金採取者が税金も支払っていないことが、補償対象から容易に除外される理由である³⁰。また、その確定が困難で膨大な数のフリーライダーを生じさせ易いこと、数千人への補償が事業主体にとって無視できない巨額コストになること、被害対象者の拡大とそれに伴う被害自治体の増大が合意形成を著しく困難とさせることが、おそらく砂金採取者への補償に対する事業主体の消極的な姿勢を作り出している。

しかし、上述のような生活の困窮化は、特に砂金採取者によるプロジェクトへの反発圧力を増大させることとなり、2003年より事業主体も砂金採取者を補償対象として認定する姿勢を見せ始めている。これに対し、NPC は、新たなLPの提供を提案した。一方、主に砂金採取者で構成する住民組織ティマワ (TIMMAWA) は、被害を受けた約3,000人の砂金採取者に対して、農業等と同様に砂金採取ができなくなったこれまでの期間に対する金銭補償とLPの組合せを要求しており、そのLPも融資ではなく贈与の形式をとるべきであると主張している。この交渉は2004年3月現在も続いており、具体的な補償は未だ全く実施され

ていない。

b. 履行されない優先順位

直接被害世帯には、建設労働が優先的に与えられることになっている。この建設労働は2種類存在しており、建設作業と建設の前段階のクリアリング（木々の伐採や家屋等障害物の除去）や植林である。前者が250ペソ／日前後であり、後者は180ペソ／日前後である。

ここで問題になるのは、建設労働の定義と優先権である。まず、建設労働の定義について、多くの直接被害世帯が、建設作業の方を獲得できるものと思っているが、実際には高賃金の建設作業は、高卒以上の学歴が求められており、直接被害者のほとんどがこの要件を満たさない。また、機械の操作技術を有している者は更に少ない。このため、賃金の安い方の仕事にしか従事できない者がほとんどとなる。更に、建設業者は機械の操作に慣れた労働者を別のプロジェクトの終了と同時に連れてきているため、地域外の者が数多く高賃金の労働に就くこととなる³²。そのことに対して不服を感じている（ひどい場合には約束反故と認識している）者も少なくない。

加えて、労働のプライオリティも十分に守られていない。生活手段を失った世帯にとって、日給180ペソという低賃金では、1ヶ月25日働いても4,500ペソにしかないため—そして、この金

³⁰ 2004年3月25日におけるトミー・バルデス (SRPC 環境・社会開発部マネージャー) のインタビューでの発言。

³¹ 当初、砂金採取世帯の補償からの除外の理由として、再三にわたって NPC はこのような点を挙げている。

³² 実際、建設請負業者のレイセオン社は、サンロケ建設終了後、約100人程度の熟練労働者を次のプロジェクトのある中東に連れて行く計画を立てている。

額は1世帯が暮らすのにやっとの額でしかない一、毎日獲得する必要がある。しかし、建設期間中、継続的に雇用されていた世帯は、正規労働を得た一部の高学歴者、技術取得者のみであり一加えて、ローカリエリートもしくはSRPC、NPCの上部の人間との縁故が必要であると言われていて一、残りのほとんどは、建設労働を欲しているにもかかわらず、月平均に直すと数日程度の者から15日程度までの間に含まれてしまう。これは、建設労働が不足していることを意味しない。そうではなく、直接被害者以外の地域住民や地域外住民の建設労働への参加によって、直接被害者の雇用枠が狭められているのである。

c. 生活手段プロジェクトの失敗

旧生活手段創出プロジェクト

表15はSRPCが積極的関与を開始する以前(2002年)のサンニコラス町およびサンマニユエル町で実施されたプロジェクトの状況を示したものである。代替生活手段を創出するという点で機能を果たしているものは存在せず、利益の出ているものも副収入程度にしかならないもの、ほとんど利益を出し得ないものに限られている。

牛や豚の飼育に関しては一上手くいったとしても副収入程度にしかならないが一、実施されたどのプロジェクトでも、「病弱な仔牛もしくは子豚を高く買わされており(実際は融資)、病死したり、育てるのに割が合わずに利益が出なかった」との回答が参加住民からなされている。事実かどうかは分からないが、仔牛・子豚の購入もしくは肥育のプロセスでモラルハザードが生じていることは確かである。このプロジェクト参加者のほとんどがNPCに融資返済を行っていない。

森林保護、やぎ肥育、消費者共同組合では、代表メンバーの管理によって恣意的にLPの目的が狂わされている。

不明のプロジェクトについては、対象バランガイの多くの住民に聞いたところ、誰も知る者のいなかったプロジェクトである。実際に存在している(していた)のか、機能しているのか分からないが、情報が特定のネットワークにしか伝わらな

いフィリピンの一般的な特徴を良く示していると言える。

新たな生活手段創出プロジェクト

表15は、2004年3月時点での生活手段創出プロジェクトの状況を示している。これらのプロジェクトは被害世帯数に比べて参加世帯数が大きくかけ離れており、1世帯の例外(マッシュルーム栽培)を除いて全てのプロジェクトが主要手段に代わる程の収入になっていない。既に建設労働という過渡的な収入手段が失われてしまっている一方で、その期間に創出していただければならないはずの新たな生活手段は、ほとんど構築されていないのである。

2002年、SRPCはLPへの積極的な関与を開始する。大統領交代劇という政治的混乱によってLP責任主体であるNPCが機能しなくなっていたため、多少なりとも効果が現れるのにその後1年を待たなければならなかった。現在、SRPCは、十年以上の長期的視点から、「生活の向上」という被害住民との約束を履行すると明言しているが、これは二重の意味で約束の反故であり、失敗と認識されるべきものである。元々の計画において、移転時の迷惑料、建設労働、そして新生活手段という流れの中で、一時的にでも生活の低下、貧困化を被ることは、想定されていない。しかし、実際は先述のように頓挫し、多くの補償対象世帯が生活の低下、貧困化を被っている。そして、このLPは、事業主体によって勝手に長期計画へとすり替えられてしまった。更に、もし、この一連の流れがとぎれるのであれば、新たに約束不履行に対する迷惑料のようなものが支払われるべきであるにもかかわらず、生活の低下に対する適切な対処は全くなされていない。

6. 何故、補償システムは失敗したのか?

6-1. 補償に関わる評価

a. 単純化された生活手段評価

大規模プロジェクトにおいて、生活状況の把握は、一般的に、生活手段、収入額、世帯人数、私有財の表面的な金銭評価によって行われるのみで

ある。本プロジェクトでも、同様であり、生活の質やそれを支える要因についての分析はなされていない。特に、貧困についての分析に不可欠とされる安定性に対する分析は全くなされていない。実際には、分析対象地域は、農業と砂金採取という相互補完関係にある2つの生活手段を柱として、さまざまな生活手段（社会的関係も含む）を柔軟に組み合わせることにより、生活の安定性（＝リスク管理）と機会の獲得を著しく高めていたと言える。そして、この点こそが、表面的で平均化された収入金額以上に、地域住民の生活を豊かなものとしているのである。

生活手段に対する誤解は、砂金喪失と引き替えによる治水・灌漑の整備正当化という最も根本的な失敗を引き起こすこととなった。治水・灌漑の整備は、農業を主とする住民にとって、収量の増加、ひいては収入の増大を促すかもしれない。また、収量の安定性も向上するかもしれない。しかし、砂金採取依存世帯の貧困化や安定性の喪失は、地域全体としてのリスク管理機能および機会獲得機能を著しく低下させてきているのである。相対的に高所得層である農業依存世帯のリスクを高め、低所得層としての砂金採取依存世帯のリスクを低めていた環境－リスクの平等化を促していた環境－を、ダムの建設によって、全く逆の、格差を拡大させる環境に転換させてしまった³³。

このような視点は、プロジェクト以前の生活状況の把握のみに限らず、補償プロジェクトにも反映されていない。LP、補償金もしくは自腹等による新たな生活手段は、家畜やトラインクル、サリサリ等の副収入程度にしかならず、主要収入手段に替わるものでないのみならず、砂金もしくは農業のように、主要生活手段の補完的な役割を担えるものでもない。

b. 実勢に合わない金銭評価

NPCによる土地の評価額については、先に述

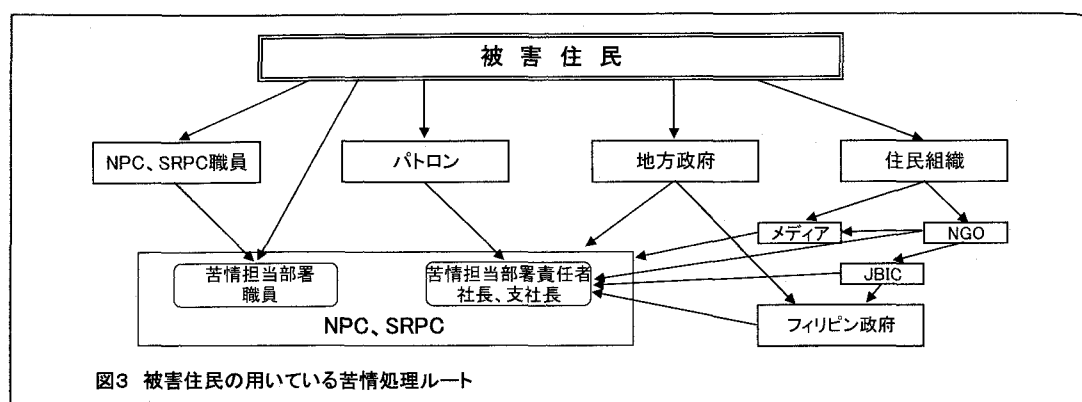
べた。実際、土地の売買は、売却希望者と購買希望者との直接的もしくは間接的な交渉によって決定されているため、そして完全に同じ土地は存在しないため、その売買価格は多様である。加えて、売買当事者は、土地の売買価格を言いたがらず、また、噂が勝手に一人歩きすることも多いため、一般的な傾向を把握するのも困難である。筆者が聞いた限りでは、250～300ペソ／平方メートルが灌漑地で道路に近い農地の適切な価格であり³⁴、補償額50ペソと大きな開きがある。この金額が過大に見積もられている可能性は非常に高い。しかし、土地の補償金を獲得した多くの住民が、同等の条件の土地を購入するのにあまりにも少なすぎると訴えており、実際に以前の1／3もしくは1／2程度の土地しか所有できないケースばかりが目につく。その結果が、表11のような土地の減少として顕れているのである。

農産品や家畜からの収入に関しても、大きな問題が存在する。それは、収穫物の価格が市場卸売価格によって評価されている点である。市場売却用であれば、問題ない。しかし、多くの世帯が自給用の確保を第一としており、市場に売却されるのは残りの部分である。彼らがもし、市場卸売価格によって収穫物を売却し、市場で必要な収穫物と同等の商品を購入するとなると、卸売価格と購入価格との価格差（＝損失）が生じる。この価格差を十分に考慮に入れた評価－表8のように自給分は市場価格、残りを卸売価格で評価－をしなければならないのである。

以上のような生活手段に対する評価の問題は、補償やLPに預かっている世帯をも、収入の減少、安定性の喪失を生じさせ、ひいては、農業投入量の減少、借金返済失敗による農地喪失、通学停止等、生活レベルの悪化と貧困化を引き起こしているのである。

³³ もちろん、この評価は、現状に対してであり、今後補償プロジェクトが大きく改善されて、全く異なるものになる可能性を否定しない。

³⁴ 土地の実勢価格については、より詳しい調査が必要である。



6-2. 補償と主体性のディレンマ

「これまで、彼ら／彼女らは、多額の補償金を手にしていたので、やる気がなく、プロジェクトも上手くいかなかった。しかし、現在、住民たちの生活は大変になってきたため、参加意欲もようやく強くなってきている。」(2003年4月、SRPC環境・社会開発部マネージャー、トミー・バルデスとの会合における彼の発言)

この発言に見られるような補償と主体性との間に存在するディレンマは、調整の非常に困難な問題である。実際、補償獲得時には多くの世帯で財布のヒモが著しく緩くなっていたように見受けられる。特に、移転地では、テレビやDVDセット、カラオケセット、バイク等を購入した世帯も少なくなく、加えて有料の電気や水道水、移動手段への依存を強めていった。更に、LPへの参加世帯は少なく、プロジェクト自体も失敗に帰した。そして、建設労働の喪失とともに、新たな生活手段への未転換と生活コスト増大の問題が顕在化していったのである。

このディレンマを克服するには、LPの責任主体と補償対象主体との間での信頼関係をベースとし、補償対象主体内でのLPへの理解および将来的な利益予測の共有を構築することによって、参加意欲を高め、モラルハザードを抑えなければならない。そして、責任主体が採った手段は、贈与でなく融資でのLPの実施、組合設立とLPの自己選択であった。しかし、サンロケダムプロジェクトの当初から被害住民が蚊帳の外に置かれてしまっていたため、そして、LPの多くが組合の名の下

でローカリエリートによって私有化もしくは政治化³⁵されてしまったために、責任主体への信頼を醸造できず、それらに対する無力感も強くなり、不透明さ故に将来的な利益予測も共有されていなかった。加えて、補償であるにもかかわらず、融資という形態をとっていた点が、逆に責任主体に対する補償対象住民の不信感を大いに高めることとなった。結果は、参加世帯の停滞と低い参加意欲、プロジェクトの私有化・政治化や資金持逃げ等のモラルハザードである。

6-3. 苦情処理の問題

a. 欠落したインセンティブ

プロジェクトに伴う問題に対しては、事業主体の設ける苦情処理のための窓口が媒介となり、その対処がなされることになっている。しかし、次の点を忘れてはならない。十分に住民の意思を反映させていないトップダウン型のプロジェクトが推進されるということは、そもそもプロジェクトの当初から住民の主張に耳を傾けるインセンティブが大きく欠落していることを意味する、という点である。したがって、よほど仕組みを工夫しない限り、住民の苦情、問題を把握し、それに対処する（もしくは、させる）ことはできない。

b. さまざまな苦情処理ルートと限界

被害住民がその問題を NPC、SRPC に伝え、対処を要求するルートは、主に図3に示す5つに分

³⁵ この問題に関しては、6-4にて詳しく論じる。

表15 SRPC介入以前(2002年3月)の時点での

サンマニエル町、サンニコラス町における生活手段創出プロジェクトの状況

	プロジェクト	成果
San Manuel Camangaan Resettlement San Roque	養豚プロジェクト 牛・豚肥育プロジェクト	2002年半ばにようやく豚舎は出来るも豚は来ない 失敗(病弱な安い仔牛・子豚を高く買わされた との住民からの批判)
Nara	消費者協同組合 カラバオ(水牛)肥育 トライシクル貸与	利益なし:赤字経営と不透明な資金利用 不明 不明
Camangaan Resettlement	マッシュルーム生産セミナー 植林プロジェクト 料理・食品加工セミナー	1世帯のみ生産開始し、高利益獲得 不明 成果なし
San Nicolas San Felipe West San Felipe West Lagpan Resettlement	豚肥育のための農産品供給スト やぎ肥育 裁縫プロジェクト 豚肥育プロジェクト 料理・食品加工セミナー 裏庭でのマンゴー、ココナツ植樹 マッシュルーム生産セミナー 牛肥育	機能しておらず/資金運用が不透明で混乱 バランガイキャプテンの私有物化 成果なし 開始されておらず 成果なし 失敗(ほとんどの家で枯死) 成果なし 失敗(病弱な安い仔牛を高く買わされた との住民からの批判)
Bulangit in San Felipe East	植林、森林保護プロジェクト	被害住民の優先権が軽視され、代表である バランガイ委員の親族が雇用に参入
Bulangit in San Felipe East	牛肥育プロジェクト	失敗(病弱な安い仔牛を高く買わされた との住民からの批判)
その他 San Felipe West, Nara, San Roque, San Felipe West	各バランガイにランドクルーザー を1台寄付	バランガイキャプテンが私物化(交代後 も、元キャプテンが個人使用)

注:生活手段創出プロジェクトは、被害住民以外にも開かれているが、この表では被害住民以外を対象にしたプロジェクトについては除外してある

類できる。それらは、1) NPC、SRPC の事務所
に個々人もしくは仲間で直接訪れるもの、2)
NPC、SRPC 職員の縁故を利用するもの、3) バ
ランガイキャプテン、(元) 町長等に陳情し、彼
ら/彼女らが直接 NPC、SRPC の適当な部の責任
者、時には社長に直接対処を求めるもの、4) バ
ランガイや町の公的決議 (Resolution) という公
的な行政手続きによるもの、そして、5) NGO に
参加し、メディアや日本の NGO、そして融資元
である JBIC を通じて、問題への対処を求めるも
のである。

当初、1)、2)、3) といった、ある意味で住民
にとって一般的な方法での問題への対処が試みら
れた。しかし、これらの方法は、十分に被害住民
の不満を解決してくれるものではなかった。筆者
がインタビューから把握する限り、ここでは、主
に、補償支払いの遅延や金額への不満、建設雇用
の要求が不満内容となっている。

まず、2) のルートに関しては、利用できる者
が非常に限られており、更に問題を複雑化する可

能性も大きい。しかし、可能であるならば、最も
容易に利用されるのも、このルートである。イン
タビューで聞いた範囲では、補償支払い手続きの
円滑化—手続きを優先的に進めてもらっているら
しい—に一定の効果を発揮しているようである³⁶。

1) に関しては、多くの住民が十分な回答を苦
情担当職員から得ることができておらず、有効性
に対しても懐疑的である (表16)。例えば、補償
の支払い遅延に関しては、いつ、いくらもらえる
のかについて「わからない」との回答しか得られ
ない場合が多く、また、空約束や「JBIC から補
償部分の融資を待っている段階である」³⁷ という
事実無根の責任転嫁的な回答もしばしば行われて
いる。事業主体に対する住民の信頼感が大きく損
なわれているため、不明確な回答は逆に住民の不

³⁶ 所有権が重複している土地で、NPC 職員でもあった当
事者の1人が、自分に対して支払い手続きを行ってし
まったという話もあったが、この点に関しては事実確
認をしていない。

³⁷ 補償部分には、JBIC からの融資を回すことはできない
ことになっており、実際には JBIC と全く関係がない。

表16 ネットワークとその役割に関する調査(サンニコラスのみ)

バランガイ	San Felipe East	Lagpan 1	Lagpan 2	Lagpan 3	Lagpan 4	Lagpan 5
参加組織	教会(ミサのみ) TIMMAWA	教会(ミサのみ) TIMMAWA	TIMMAWA	TIMMAWA		
依存する人間関係	土地所有者 = 親族 砂金採取仲間(近所) BRGYキャプテン 元町長	血縁 以前はトレーダー (今は借金できず) カガワット	砂金採取仲間 血縁	血縁 カガワット BRGYキャプテン	土地所有者 = 親族	
プロジェクトの問題	生活手段 砂金喪失	生活手段 砂金喪失	生活手段 砂金喪失	水、電気料金 生活手段	生活手段	生活手段 水、電気料金
問題解決に有効な組織・人間関係	TIMMAWA	TIMMAWA	なし	TIMMAWA	なし 皆が回結しないとムリ	なし
※その理由	事業主体と関わる 唯一の組織	我々の問題に取組む 唯一の組織		生活手段を解決できる 唯一の組織		
他組織・人間関係が有効でない理由	政治家、行政機関は 十分な交渉不可能	政治家、行政機関は 事業者とグル カガワットは、臨時 雇用のみ有効	政治家、行政機関は 我々に関心なし	地方政治家・行政機 関の権限を超越	元町長に町は支配 されているから希望 はない	政治家・行政機関は 何もしてくれないし、 信頼もしていない
NPC、SRPCの苦情 処理の有効性	有効でない	信頼できない 嘘やごまかしばかり	有効でない 利用したことない	有効でないとい聞いた 利用したことない	有効でない	有効でない
その他	補償金の大小により 地縁・血縁が分裂	親族間でも借金に利 子100%が必要に 土地争いの発生	以前は親族がいつも 一緒だったが、今は バラバラ		土地争いの発生	親族間の喧嘩が 頻繁化 親族間でも借金に利 子100%が必要に

バランガイ	Bensican 1	Bensican 2	Bensican 3	Bensican 4	Bensican 5	Bensican 6
参加組織	教会(ミサ、冠婚葬祭)	教会(ミサ、冠婚葬祭) 農業労働組織(夫)	教会(ミサ、冠婚葬祭)	TIMMAWA	TIMMAWA	教会(ミサ、聖書学習) 農業労働組織
依存する人間関係	血縁 地縁	血縁 地縁	血縁 地縁	土地所有者 トレーダー = 地縁 地縁	土地所有者 = 親族 カガワット = 友人 トレーダー = 地縁	血縁 地縁 トレーダー = 地縁 カガワット = 血縁
プロジェクトの問題	生活手段 砂金喪失と補償	生活手段 砂金喪失と補償	生活手段 砂金喪失と補償	生活手段	生活手段	生活手段 砂金喪失
問題解決に有効な組織・人間関係	なし	なし	なし	TIMMAWA	TIMMAWA (しかし今は消極化)	TIMMAWA
※その理由				ダムに反対している 唯一の組織	一番交渉力がある	他は全く活動してい ないから
他組織・人間関係が有効でない理由	政治家は、補償に関 して汚職	政治家、行政機関は 何もしてくれない	政治家、行政機関は 何もしてくれない	地方政治家・行政機 関の権限を超越 元町長には逆らえず	血縁、友人、地方政 治家の権限を超越	政治家・行政機関は 何もしてくれないし、 口約束のみ
NPC、SRPCの苦情 処理の有効性	補償から除外されて いるので、相手にさ れない	補償から除外されて いるので、相手にさ れない	補償から除外されて いるので、相手にさ れない	有効でない	有効でない	有効でない
その他					金貸しが増え、力を つけている 地縁の相互扶助が 急速に破壊	貧困化で血縁関係も 壊れてきている

注: ベンシカン 1~3は一緒にインタビューを行っているので、回答が似通っている

安を増大させることにもなっている。

3) は、1) や 2) の方法で対処できない場合に利用されるルートであり、補償支払い要求や雇用要求が主な内容となっている。町長（およびサンニコラスでは元町長）、直接被害地のバランガイキャプテンは、SRPC や NPC、建設請負会社レイセオンの関連部署責任者と容易に面会でき、かつ被害住民の政治的 대표者として彼ら／彼女らに対する発言力をも有しているため、1) や 2) と比べて効果的なルートであると住民から認識されている。しかし、問題および限界も存在する。まず、個々の住民は町長の既存の決定に対して影響力を有していない、もしくは意見すべきでないと自身で強く認識しているため、陳情内容は町長の決定の範囲内に限定される。したがって、プロジェクトそのものに対する批判—これはプロジェクト

の承認を行った町長もしくは元町長への批判を意味してしまう—はできない。更に、町長（および元町長）預かりとなった問題に対して、その決定がどのようなものであれ、異議を主張することも、ほとんどの場合、住民はしない³⁸。

また、3) ルートの問題に関しては、以下のような点を挙げられる。まず、補償獲得に関して、町長、元町長、副町長に支援を依頼すると、その手数料として獲得補償額の20%前後を支払わなければならない³⁹。更に、雇用に関しては、非直接

38 一般の住民にとって、サンマニユエルの町長およびサンニコラスの元町長ロドリゴは、非常に頼れる存在である一方で、非常に恐れられる存在でもある。

39 主要な仲介役の一人であるサンニコラスの元町長によれば、手数料は「法律の専門家に依頼する」からとのこと。その他、副町長に依頼した住民もいたが、同様の手数料を支払っている。

被害者からの依頼を優先することも可能となり、実際、多くの直接被害住民が建設雇用機会を縮小され、その分、非直接被害者の雇用が拡大されている。表11で移転世帯であるカマンガアンおよびラグバンでは、全ての世帯が建設雇用を欲しており、優先権も与えられているにもかかわらず、建設雇用からしばしば除外されている。一方で、数量的な把握こそできていないが、多くの非補償対象住民が建設現場で雇用されている。この内、サンニコラスでは、非補償対象住民の少なくない人数が、建設雇用に影響力を有するサンフェリペ・ウェストのバランガイキャプテンに雇用の依頼を行い、実際に建設雇用を得ている⁴⁰。

4) や特に5) のルートが影響力を有するようになったのは、1) ～3) のようなプロジェクトの既存枠組み内での対応に対して、大きな不満が蓄積されていることを示している。4) については、サンマニエルから川砂利採掘の明らかなECC違反に対する異議、イトゴン町からは土砂対策や補償プログラムに対する異議がともに町議会の議決に基づいて提出され、一定の改善に結びついている。しかし、本調査で焦点となっている実際に生じている住民の生活困窮化の問題に関しては⁴¹、4) のルートも機能していない。

表16は、1) ～4) のルートに関して、住民たちが状況を変える－SRPC、NPC、フィリピン政府と十分な交渉を行う－のに不十分もしくは不適切であると認識していることを示している。特に、フィリピンで支配的であり、調査対象地でも同様である3G政治（Gold、Goons、Guns）と縁故主義が、問題解決の大きな足かせになっていると認識されている点は重要である。

5) のルートで伝達される問題は、生活の困窮化（および改善見通しへの絶望）を根拠とするプロジェクト撤回、金銭補償および無償かつ自分たちの管理によるLPを柱とした砂金採取への十分

な補償、その他遅延補償の早急な支払い、深刻な状況を証明するための独立調査の実施である。もちろん、プロジェクト撤回は別として、他の問題に対して、1) ～4)、特に3)、4) のルートが全くの無力という訳ではない。しかし、既に住民の多くが、ローカルエリートを事業者サイドの人間であり、問題の解決も彼らの能力を超えているものと認識しているため、住民にとってそれら両ルートも強力な交渉窓口となりえないものと実感されている。

5) は住民にとって、全く新しいものであり、有効かどうか測りかねているのが実情である。しかし、フィリピンで支配的な3G政治、縁故主義とは全く無縁な代弁主体の出現は、多くの住民の支持を集めるのに十分である。この代弁主体であるNGOは、メディアを利用して注目を集め、NGOネットワークを利用してJBICに働きかけることができるため、事業主体にとって無視しえない存在と化してきている。しかし、大きな限界も存在している。それは、NGOの活動が、既存の政治構造の否定を不可避とする－これは3Gとの対決を意味すること、そして生活困窮化の進展と長期化による。実際、サンニコラスでは、元町長によるさまざまな圧力が多くの被害住民の参加を消極的なものにしており、生活の困窮化により活動に参加する時間的、経済的な余裕も喪失させてきている。

6-4. ローカルポリティクスの介入

ローカルポリティクスの介入は、このような大規模プロジェクトに付随して発生するさまざまな問題を生じさせる要因の中で、おそらく最も注目されなければならない－しかし、その把握は困難であるため、これまでほとんど無視されてきた一点であり、これまでしばしば触れてきたように、本プロジェクトでもさまざまな問題の直接的もしくは間接的な原因となっている。それらをもう一度繰り返すならば、全体的なプロジェクトへの反対主張の抑圧や無視・軽視、合意および正当な合意手続きの無視、補償プログラムの私有化・政治化と、その帰結としての貧困化である。

⁴⁰ 2002年3月の調査では、バランガイキャプテンが、自分のバランガイ住民（移転地以外）の多くに対して、建設労働を与えていると発言している。

⁴¹ イトゴンの場合は、将来的な問題としての土砂堆積や補償が焦点となっている。

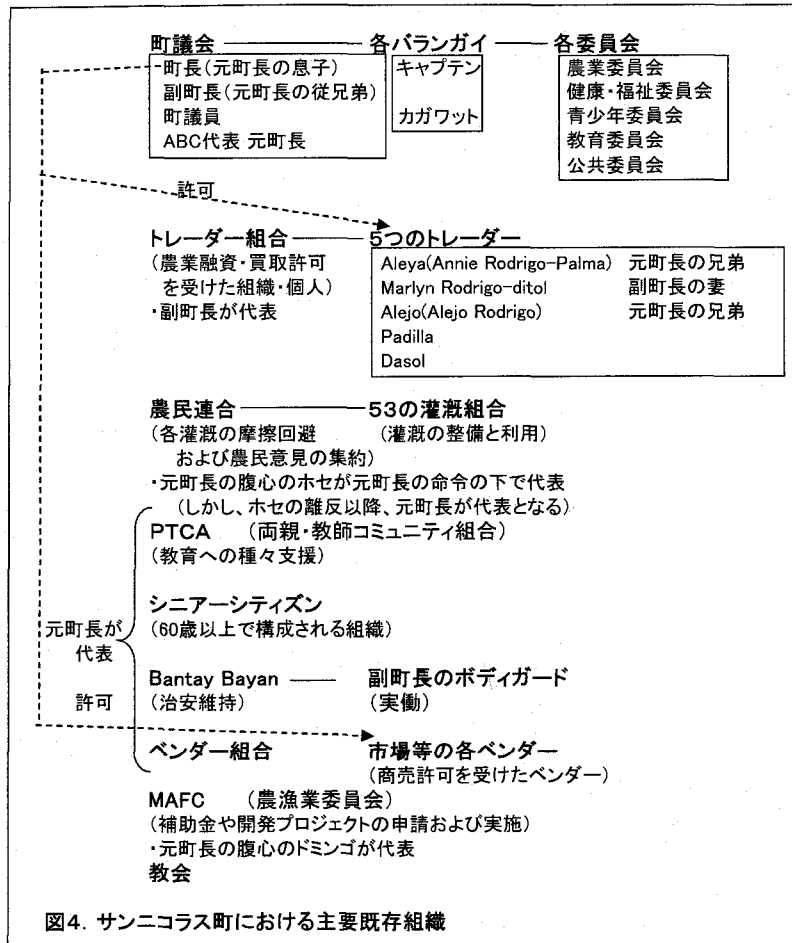


図4. サンニコラス町における主要既存組織

a. サンニコラスの社会構造

概要

本調査では、3つの被害対象町(本来、その数は増大すべきであるが)の内、サンニコラスを調査・分析の対象として選定した。

サンニコラス町は、33のバラングイによって構成されており、人口31,418人、6,533世帯、内、有権者数15,872人を有する。主要産業は業で、農家人口は2,875人(農地所有者に限る)、農地面積3,450ha(総面積は210.20平方メートル)のほとんど全てで稲作が行われている。小作農を含む農業従事者(農業労働者は除外)は、労働人口の75%程度と言われている(以上、2000年)。

既存組織

サンニコラス農村部での既存組織は、図4の通

り。ここで注目すべきは、教会以外の主要組織の全て中心が、元町長であるコンラド ロドリゴ・ジュニア氏に集約されている点である。そして、この構造は、フィリピン地方政治の研究において膨大な蓄積を有しているパトロン・クライアント関係⁴²を色濃く反映している。

本来、被害住民の主張が伝達されるのは、農業に関しては、行政組織としての農業委員会、バラングイ、そして町議会というルート、および灌漑

⁴² ここでは、「社会経済的に地位の高い個人(パトロン)が、低い地位にある個人(クライアント)に対して、その影響力と資源を用いて、保護もしくは利益を与え、クライアントの側は、パトロンに対して個人的なサービスを含む一般的な支持と援助で報いるという、道具的な友情関係と関連する、特別な2者間のつながり」という定義を用いる。

組合、農民連合というルートの2つである。そして、砂金採取に関しては、意見を集約できる直接関連組織が存在しておらず、バランガイ（この場合、一般的に年1、2度開催されるバランガイ・アセンブリ）から町議会へという一般的なルートのみとなる。

まず、組織の点から農業構造について見ると、ほとんどの農民が灌漑組合およびトレーダーに依存している。

トレーダー

トレーダーは、町の許可制—この裁量は完全に市長に任されている—になっており、図4の5つのトレーダー以外は、基本的に農民への融資を認められていない。これらのトレーダーは、副町長で、元町長の従兄弟でもあるディトル氏が町長（元町長の息子）から任命されている。

サンニコラスは近隣町よりも若干農民に不利な価格設定がなされている。このため、サンニコラス以外で売買を行うインセンティブが生じるが（地理的に可能なのは、ナティビダッド町、タユグ町）、その場合、元町長のボディガードが見張っている主要道路3箇所のチェックポイントで、税金を徴収される。この税金の額は、トライシクル等による運搬費用および税金を合わせると、近隣町で売買するのとはほとんど同様の価格になるように設定されている（野菜や豚等に関しては緩いが、米やコーンといった穀物に関しては完全に外部での販売が不利に設定されている）。また、融資については、基本的に外部トレーダーへの依存は禁止されており、その外部トレーダーもナティビダッドおよびタユグを拠点している場合は、それらの町から禁止の圧力がかかるような取り決めが町のトレーダー組合同士で結び結ばれている。したがって、物理的に外部トレーダーへ依存することはできない。高利貸しや親族等といったインフォーマルな資金源への依存も不可能ではあるが、高利貸しはあまりにもリスクが大きすぎ、親族への依存には高額すぎる。唯一の例外はベンシカンであり、インフォーマルでかつ金利もトレーダーと同程度に抑えられている。

灌漑組合および農民連合

灌漑組合は、水に関する摩擦を回避・克服することを目的としており、1988年に元町長（当時町長）のイニシアティブの下で設立された。現在では、水分配のみならず、農業全般の問題を対処・調整するようになっており、各組合もしくは農民連合の内部で対応できるものは自ら解決し、解決の困難なもの—例えば灌漑設備の破壊や摩擦の加熱等—に関しては、元町長に支援を要求する。灌漑設備の修繕であれば、町もしくは州から資金および技術の支援を行い、しばしば資財をも提供する。摩擦に対しては、仲介に立ち、必要とあれば、資財を提供し、それでもダメな場合には、ボディガードによる威圧効果を用いる。元町長の威圧効果の下での組合の設立は、それまで頻繁に生じていた摩擦を極端に減少させた。これら組織は、元町長へ依存することによって初めて十分な成果を伴って機能してきた組織と言える。この結果、農民の元町長に対する信頼も大きく向上することとなった⁴³。

代表として、元町長は彼が国会議員エステレリアの下で政治家としての下積み経験をしていた頃⁴⁴からの友人であり腹心でもあったホセを起用した。ホセの基本的な役割は、農民連合の利害調整および元町長との仲介役であり、選挙時には、元町長の下での集票役（誰に投票するのかを組合員に指示）であった。

当初、灌漑組合および農民連合は、耕作農民のみに参加資格を与え、その代表も彼ら／彼女らの中から選ばれるよう規定されていた。しかし、ホセの元町長からの離反後、元町長が何の正当な手続きもせずに、ホセを農民連合の代表から外し、

⁴³ 実際、元町長の権力基盤は農民であり、サンロケプロジェクトの推進者となる前までは、農民から恐れを伴う大きな信頼を得ていた。

⁴⁴ 元町長がまだ副町長だった1990年、彼は現在の下院議員エステレリアの命令でスパイとして彼の政敵の支援者となり、さまざまな情報を伝えていた。この時、彼が協力者として同行させたのがホセ（現在のティマワの代表）であり、以降、袂を分かつまで彼の友人、腹心として働いてきた。

自らを代表に据え、現在に至っている。この出来事は、元町長が灌漑組合、農民連合に対して非常に大きな影響力を有していることを示している。

バランガイ

バランガイは、フィリピンにおける最小の行政単位である。バランガイキャプテンおよび6人のカガワット（委員）は、バランガイ選挙によって選ばれ、彼ら／彼女らによってセクレタリー、トレジャラー、SK委員長各1名が選出される。バランガイの下には、各種委員会が設けられており、一般的にバランガイ委員がその長として振り分けられる。

さまざまな事項については、この委員会およびキャプテンによって必要時に招集される会議、年最低1度全住民の参加するジェネラルアセンブリー⁴⁵において話し合われ、さまざまな決定が下される。

本調査にとって重要な点は、次の2点である。その第1は、砂金採取が住民の生活に非常に重要であるにもかかわらず、公的な生活手段ではないため、バランガイの下で議論をするのに適当な委員会が存在しないことである。このため、農業と異なり、砂金採取の問題が公的な主張として事業主体に伝達されることは未だに行われていない。

第2は、バランガイの役割についての住民およびバランガイ委員の認識である。表15からもうかがい知ることができるが、バランガイは、その内部の平和と秩序の維持—主に喧嘩の仲裁や内部利害関係の調整、解決不可能な問題のABCもしくは町議会への上奏—を役割としており、フィリピンの法体系—プロジェクトの枠組みでもある—と異なり、その中にサンロケダムのような国家プロジェクトに対しての積極的な交渉主体とは認識されていない点である。実際、プロジェクトの被害対象から除外されているにもかかわらず、深刻な被害を被っているバランガイは数多くあるが、ど

のバランガイもプロジェクトに対して全く機能していない。

2002年3月から2004年3月にかけて、数多くの現および旧のバランガイキャプテンおよびカガワットに対して、バランガイの役割と問題解決能力についてインタビューを行った。水不足の問題については話し合いがもたれ、元町長を通して事業者側に水の開放要求を提出したが、砂金採取やLPについては全く問題として取り上げられていない。また、「被害対象主体としてバランガイの公的決議を出せば、問題解決のための大きな影響力を獲得できるのではないか」との質問に対しては、法的には可能かもしれないが、それはバランガイの役割を超えているとの回答が全てのインタビュー対象者から返ってきている。また、多くのインタビュー対象者が、元町長のイニシアティブを必要としていること、仮に元町長のイニシアティブがあったとしても、国家プロジェクト相手、特に後述のようなアロヨ大統領と元町長との政治的なつながりの下では、問題の解決は困難であるとの認識を示している。

バランガイキャプテンおよびカガワットを選出する選挙に関しては、住民はある程度自由に投票を行える状況にある。しかし、このバランガイ選挙、特にバランガイキャプテンの決定に際して、元町長の個人的裁量にバランガイの問題解決を大きく依存している構造の下では、少なくとも元町長の信任が必要とされる。最近のバランガイ選挙では、元町長に対抗する候補は、彼の政敵であるバランガイ ポブラシオンイーストのサルディバル以外に存在しておらず、彼以外の全ての候補に対して元町長は信任を与え、選挙資金を支援している。

選出されたバランガイキャプテンは、ABC（バランガイキャプテン連合）を形成している。ここでは毎月1度、第一週に会議を開催し、そこでさまざまな問題を討議し、町議会もしくは適当な機関に対して、問題解決のための支援の要求を行う。また、この代表は町議員として町議会に参加する資格を有する。ここでも、元町長が代表として、個人的なネットワークを通じてプライオリ

⁴⁵ バランガイによって開催頻度は異なるが、一般的に年2回程度のジェネラルアセンブリーが開催されている。

ティの高い問題の対処を行っていく。また、この場だけでなく、元町長は balan gay 選挙やカガワットーしばしば公的地位を持たない個人の場合も有る一が定期的に持ってくる私的および公的な陳情に対して支援を行い、更にしばしば元町長の下で開催されるパーティーに招き一パーティーへ招待され、参加したことが彼ら／彼女らの元町長との親密度のパラメーターとなり、ひいては住民の信頼の土台となる一、元町長との連絡のための携帯テレホンカードや足代を提供する。

町議会

町議員、町長、上院議員、下院議員、大統領に関する選挙は、balan gay 選挙と異なり、典型的なパトロン・クライアント関係の様相を呈している。選挙の前日には、サンニコラスの各地でパーティーが行われ、これまでに元町長の私的サービスを受けたことのある人間がほとんど強制的に呼び出される。また、このパーティーに出席しない場合には、説得的な理由がない限り、元町長の反対派と見なされ、彼からの直接的なサービスのみならず、彼のサービスを受けている個人や組織からのサービスをも受けられなくなる。そして、パーティーに出席することでリストに名前が掲載される。翌日の選挙ではそのリストを持った元町長のボディガードや腕力に定評のある元町長のクライアントが投票所の中で見張りに立ち、実際に住民が投票用紙に名前を記入するところをチェックする。

その他組織

その他、プロジェクトの問題と直接関係しないが、教育、特に小学校への種々の支援を目的とした学生両親と教師で組織する PTCA (Parents & Teachers Community Association)、60歳以上の住民によって組織されるシニア・シティズン、市場等公的な場所での商品販売を町から許可されており一この裁量はトレーダーと同様、完全に町長に任されている一、そこでの販売に関する利害関係の調整を目的とする小売業者で組織するベンダー組合、治安維持を目的としており、逮捕の権限を有するバンタイ・バヤン (Bantay Bayan)、補助

金や開発プロジェクトの申請および実施を行う MAFC (Municipal Agriculture & Fishery Counsel)、そして教会が、サンニコラスにおける主要な組織である。これらの内、教会を除いた上記全ての組織が、元町長、町長、彼らのファミリー、友人を代表とし、元町長および町長の提供できる種々のサービスに大きく依存する仕組みになっていると言える。

また、元町長を頂点とした社会構造を支える上で、主にボディガードや噂を利用した抑圧手段が重要な役割を担っている。元町長のサービスの中で、過度の摩擦の解決が重要であることについては先に述べた。元町長本人が元ゲリラ出身であるということや、頻繁であった牛泥棒を排除した逸話、誰にも手に負えないならず者が失った事件、銃装束を誇示した10人のボディガードと彼らによって解決された多くの暴力的な事件、元町長がしばしば恫喝に用いる暗殺者への殺害依頼、現在の選挙活動中に生じた彼の政敵関係者への襲撃事件等々、ひとつひとつであればとるに足らないか真相の定かでないものばかりであるが、それら噂がこれ程集まっている点、実際に彼によってさまざまな事件が解決されてきた事実は、住民を威圧するのに十分すぎる要因となる。

以上、サンニコラスに存在する主要な組織、ネットワークについて簡単に整理したが、内部だけを見ると、元町長を中心とした非常に強固なパトロン・クライアント関係が構築されていることが分かる。もちろん、弱点も存在する。それは、パトロンの提供できるサービスが、少なくとも多くの住民に需要最低限の生活を補償できることを前提としている点である。そして、そのサービスは彼の限られた個人的資源で賄いきれない。重要なのは、彼よりも上位の政治的パトロンを介した公的な資源(州や国からのさまざまな支援)へのアクセスであり、それを十分に確保できなくなった時点一例えば大統領の交代に適應できなく、公的資源のアクセスが断たれる一で、交代が生じることとなる。

上位政治家との関係

サンニコラスは、1991年からコンラド・ロドリゴ・ジュニア（本稿での元町長）が3期の町長を勤め一連続最大3期までに法的制限有り一、2001年の選挙では息子が立候補し、町長に就任している。その際、元町長は地元バランガイ・ポブラシオン・ウェストのバランガイキャプテンに就任し、ABCの代表として町議員の資格を獲得している。この町長選挙では、対抗者のサルディバルから選挙違反のクレームがつき、泥沼化しそうになったが、最終的に大統領アロヨが介入し、元町長の息子の勝利を宣言して摩擦は終息した。

元町長自身は、彼自身の直接のパトロンであり、パンガシナン州の有力ファミリー⁴⁶の中心人物エステレリア下院議員とともにエストラダ元大統領を支持して基盤を固めた。2001年1月にエストラダ元大統領が政権を追われ、副大統領のアロヨが繰り上がりで大統領となる。その年の5月には、町長選挙が開かれたが、先述のようにアロヨの介入によって元町長の息子が新町長として認められた。そして、この出来事を境に、彼はアロヨの政党ラカスに鞍替えした。彼のパトロンであるエステレリアもアロヨが大統領になった直後にラカスへ転身している。

b. プロジェクトと社会構造の動態

新たな組織・ネットワーク

プロジェクトに付随して生じた主な組織・ネットワークは、SRPC、NPC およびそれら主体と既存組織もしくは個人との関係としてのネットワーク、プロジェクト批判住民組織としてのティマワである。

SRPCによる新たな補償プログラムの試み以前のSRPC、NPCに関しては、これまでの調査結果からも明らかなように、基本的に既存組織へ接合してに過ぎず、元町長を結節点とするパトロン・クライアント関係の一部として機能するものであったと言える。基本的インフラや種々の補償プロ

グラムは、元町長の功績を高め一地方政治家の功績は、公共事業や公的支援の導入数・額に大きく依存する一、その短期的利益一例えば、杜撰な監視の下での資金のばらまきによるインフラ整備や補償プログラムの利用一および長期的利益一例えば灌漑の整備に伴う農民の投入意欲の増加とその帰結としてのトレーダーの利益向上、増大する税収の積極的な利用等一を彼および彼の近いクライアントに配分するのみではない。彼を町政府におけるプロジェクトのコンサルタント（＝唯一の交渉窓口）として任命することにより、プロジェクトから生じるさまざまな問題への対処の一元化を図り、発生する問題をも通して被害住民の彼への依存を増大させているのである。

しかし、サンロケプロジェクトは、従来のパトロン・クライアント関係を強化する方向にのみ機能した訳ではない。プロジェクトによる被害は、元町長のパトロンとしてのサービス能力を大きく越えており、不満の蓄積を十分にコントロールできなくなっているものである。その結果が、ティマワの設立と活性化である。

ティマワは、被害住民、フィールドワークに従事するフィリピン大学生、NGO、そして不満のコントロールーおそらく反対活動もが中央政府から支援を獲得するための重要なカードであった一を目論む元町長といった複数の主体が反対運動の組織化という点で利益の一致を見たことによって設立された組織である。元町長は、農民を管理する上で最も信頼できる腹心のホセを組織化の中心人物として送り込み、活動に資金援助を含めたさまざまな支援を行った。ここからは推測になるが、おそらく、ラモスを強く嫌悪し、彼の政治的基盤のパンガシナン州に過度の政治的攻撃をかけたエストラダ政権下では、特に政権初期において、このプロジェクトもその手段として用いられていたのではないだろうか。そのためにプロジェクトの位置づけが非常に不安定なものであったのか、それともわざと不安定な状況を作り出していたのかは分からないが、前者であれば積極的に中央政府から支援を受ける手段として、元町長が独自の判断で反対運動を利用しようとした、もしくは後

⁴⁶ パンガシナン州で最も政治力を有したファミリーは、サンロケプロジェクトを推進したラモス元大統領のファミリーである。

者であれば、形式的な障害を作ってプロジェクトの権益をエストラダ自身のパンガシナンでの基盤形成に役立てるため、エストラダの支持の下で反対運動を利用しようとした、と解釈することも可能である⁴⁷。

しかし、再びアロヨ政権下でラモスファミリーの影響が増す中で、パンガシナン州では町および州政府レベルでのプロジェクトに対する批判は完全に終息した。元町長も手のひらを返して反対運動を強固に抑圧し始める。ホセにも活動の停止を命じるが、その頃には彼は NGO サイドの主張と意見を同じくしており、ティマワの代表として活動を継続、元町長と完全に袂を分かつこととなった。そして、ティマワの活動は、元町長のさまざまな圧力—例えば、元町長やバランガイ委員によるティマワ参加者への恫喝やティマワリーダーへの警察や軍のハラスメント、ゲリラ組織・反政府組織としてティマワを宣伝することによる参加者の危険人物視、トレーダーからの嫌がらせ、元町長を結節点とする各種サービスからの除外等—にもかかわらず、彼のコントロールを大きく離れ、彼の基盤を揺るがす大きな勢力と化している。

ティマワのような住民を主体とした活動がこれ程影響力を有するに至っているのは、繰り返すが、元町長の提供できるサービスを被害が完全に上回ったからに他ならない。そして、従来であれば、ティマワのような活動は、よほど鎮圧の困難な武力摩擦でも生じない限り、大きな影響力を持ち得ず、したがって多くの住民をこれ程長期間、巻き込むことはできなかった。しかし、NGO のネットワークを通じて、フィリピン国内のみならず、日本、そして世界へと問題を発信できる現在の状況の下で、ティマワは事業主体に対して交渉のルートを確保することに成功し、一定の成果をも獲得している。このことが一問題解決には未だあまりにも不十分ではあるが、被害住民の求心力となっているのである。

⁴⁷ 個人的には、パンガシナンサイドでは後者、ベンゲットサイドでは前者であるように感じている。この点の整理・分析については、今後の課題としたい。

c. 小結

以上、補償システムの問題およびその要因について見てきた。それらをもう一度繰り返すならば、それらは以下のようなものであった。

1. 単純化された生活手段の評価
2. 実勢に合わない評価額
3. 信頼関係、透明性、エンパワーメント、将来的な利益予測や情報の共有等を通じた参加意欲創出およびモラルハザード防止のためのインセンティブの構築失敗
4. 不十分な苦情処理ルートおよびその成果

そして、これらの問題は、ローカリエリートを結節点とした既存の社会組織構造を、その温床としているのである。

7. 何が必要とされているのか

これまで SRPC の始めた新たな LP の手法について十分に触れてこなかった。ここでは、この新たな試みへの分析を足がかりとして、今後の補償方法としてどのような施策が求められているのか—非常に困難な作業ではあるが—、その方向性だけでも示してみたい。

7-1. 背景

なぜ、SRPC が積極的に補償に乗り出したのか。この背景に焦点を当てることは非常に重要である。なぜなら、ローカリエリートをある程度排除する形で補償システムの再構築は、被害の軽減を進めるにあたって不可欠であり、このような方向転換（後述のように未だ甚だ不十分ではあるが）を SRPC に強い原動力を把握し、利用することも、今後持続的に補償システムを転換させていく上で決定的に重要となるからである。

a. NGO ネットワーク

最も重要な要因は、ティマワ（サンニコラス、サンマニュエル）および SSIPM（イトゴン）というローカルポリティクスからかなりの程度自由な意見集約および情報発信に関する能力を有した

組織が出現し、彼らを支援する CPA (コルディレラ民衆連合) やバヤンといった NGO のナショナルおよびグローバルなレベルに張り巡らされたネットワーク (図3の住民組織を媒介とした苦情処理ルートと同) を効果的に利用できた点である。このネットワークを通して、従来であればパトロン・クライアント関係の中に隠されてしまっていたさまざまな問題が明るみに出され、同時にある程度オープンな議論がプロジェクトの正当性を広くアピールするインセンティブを事業主体に与えることとなった。そして、この結果が、イトゴン町への再調査と被害対象者の拡大、事業主体によるステークホルダーおよび交渉主体としての住民組織の認定および交渉、砂金採取者の被害主体としての認定姿勢、補償システム再構築の動きと SRPC の積極的参加、移転住民に対する SRPC のモニタリング (砂金採取者への被害に対するモニタリングは未だほとんど行われていない) 等といった具体的な改善を促したのである。

b. SRPC 内部

SRPC 内部の要因から見ると、最も大きな点は、発電主要設備の完成および商業運転の開始である。このことが、SRPC 内部でのプライオリティに変化を与え、相対的に補償の問題に重点を移したと言える⁴⁸。

この変化は、相対的に補償責任部門である環境・社会開発部の自由度および能力を増大させることとなった⁴⁹。補償 (コミュニティ開発) のための農業技術専門職員を雇用し、彼ら/彼女らと補償対象者との話し合いの中で、崩壊しかかっていた LP の修復に着手し、新たな LP の構築も積極的に開始した。更に、50ha 弱もの土地も NPC を説得して新たな生活手段のために購入させており、目下、その利用方法を考慮している。

⁴⁸ もし、先述のような NGO を媒介としたネットワークの存在がなければ、主要設備等の完成は、補償の軽視という逆の変化を生じさせることとなる。

⁴⁹ 2004年3月におけるトミー・バルデスへのインタビューでは、NPC 社長の交代も大きな要因として挙げている。

7-2. 新たな補償

新たな LP を、表14に示した。これらは、SRPC に依頼して案内および説明してもらった情報から作成したものであり、利益や参加、仕組みについての信憑性について、筆者は未だ図りかねている⁵⁰。過大に評価されているかもしれないことを念頭に入れた上で、ここでは、前節小結で挙げた4つの問題点および1つの背景について、何が改善され、何が改善されていないのかについて整理したい。

a. 背景としてのローカルポリティクス

新たな LP は極力ローカルポリティクスを排除し、私物化、政治化の危険性を防ぐものとして設計なおされている。ローカリエリートや行政組織からの主張だけでなく、それと対立する住民組織の主張にも耳を傾け、プロジェクトの主導権を確保している点は、非常に評価できる点である。しかし、問題および限界も存在している。

その第一は、情報の格差である。ローカリエリートは、容易に SRPC の事務所に出かけるか直接電話をすることによって、さまざまな情報を獲得し、行動へと結びつけることができる。一方、住民組織は、そのリーダーやスタッフにとって、事務所への訪問は時間的、金銭的に困難であり、訪問したとしても容易に責任者と面会できず、適切な情報を獲得することも難しい。十分な信頼が醸成できていないため、事務所という環境では、代表者が、精神的に落ち着いて話せないという障害もある。また、一極集中しているローカルポリティクスと異なり、住民組織では多くの決定をリーダーのみで柔軟に行うことが許されていない。そして、このような情報の格差は、両主体の交渉力の格差として顕れるのである。

SRPC による最終的な判断が適切なものとなるとは限らないどころか、情報力格差および交渉力

⁵⁰ 噂の域を出ていないが、参加や利益に関して、SRPC の説明と大きく異なる情報も耳にしており、内情について事業関係者を伴わない状況で詳細な調査が必要である。この点については、次回の調査 (今年9月) で明らかにする予定である。

格差の前提の前で、適切な判断を行うだけの情報を獲得できないということが第二の点である。もちろん、SRPC 独自に詳細な調査を行い、被害住民から直接的に一時的な情報を得られるのであれば、問題はない。しかし、特に未だ補償対象世帯の確定していない、そして膨大な人数に昇る砂金採取世帯を相手にすると、SRPC 独自に実施することは不可能となる。

最後に、SRPC は補償実施の面で NPC から完全に独立できないという限界がある。ローカルポリティクスに大きく依存し、問題を複雑にした中心的な主体は、間違いなく NPC である。しかし、この NPC には SRPC ほどの大きな変化は見られない。NPC の枠組みから自由になれない状況下で、仮に SRPC が本気で問題解決に望もうとしていたとしても、そこには大きな限界が自ずと設定されている。

更に、SRPC 自身も、問題の深刻さに対して、未だあまりにも不十分な対策しかしてきておらず、このことは、SRPC の問題解決に向けたインセンティブが未だに不足していることを示していると言える。

b. 4つの問題点について

最初の2つの生活手段の評価に関する問題点は、新たな LP の下では無意味なものとする。少なくとも現在の SRPC の補償基準は、1ヶ月4,500ペソ以下の貧困層の解消である。貧困層の解消に第一のプライオリティが置かれる点は、評価できるが、しかし、この結果として、以前の生活レベルに関する視点は全く失われており、個々の世帯やコミュニティ全体のリスクや機会に関する機能も反映されていない。

参加意欲やモラルハザードに関する点では、未だに先述した要件である信頼関係、透明性、エンパワーメント、将来的な利益予測や情報の共有は構築されていない。コミュニティ開発のための専門職員による積極的な関与と対話は、SRPC の提供した枠組みに参加した者のみに上記要件創出の上で有効であり、未だ参加してこない世帯に波及することはできないか、時間を要する。SRPC と

しては、十分情報の公開や参加への呼びかけを行っているとは認識していても、上記要件をほとんど持たない世帯に適切に伝わることはない。噂や偽情報が容易に入り込み、仮に非常に優れた試みだとしても、それを無意味もしくは破壊的なものとして住民に認識させてしまうのである。

特に重要だと思われるのは、将来的な利益予測の共有であるが、表14のプロジェクトは、参加人数の不足のみならず、分配利益もほとんどが副収入になるかならない程度のもに限られている。主要生活手段を失った住民にとって、このような利益は到底満足いくものではなく、将来的に明確なプロジェクトおよび利益に関するスケジュールも今のところ存在していない。

不十分な苦情処理ルートに関しては、先の問題とも重なるが、情報が十分に流通していない、もしくは事業主体が仮に情報を意図的に流したとしても、それを信頼できない、もしくは適切に伝達されない状況の下で、十分に問題を改善することはできない。

7-3. 何が必要とされているのか

上述のような問題点を解決し、LP を実効性のあるものとするためには、適切な情報を適切な主体に正確に伝達するシステムを構築しなければならない。このことは、これまで LP を実施してきた対象住民、ローカルエリート、NPC、SRPC、フィリピン政府のみの対応では不可能である。責任主体であるローカルエリート、NPC、SRPC、フィリピン政府のインセンティブを高め、実効性を高めるには、住民組織やそれに連なる NGO、更に、そのネットワークを媒介としたさまざまな主体による効果的な関わりを不可欠とする。

a. インセンティブ創造

まず、インセンティブの原動力として、十分な監視の下での圧力の更なる持続および強化が重要となる。ここでは、より多くの参加者によって情報収集・利害調整能力を強化した住民組織を起点とした情報の獲得、融資元の JBIC や日本大使館、財務省等を通じた LP の評価、要求による圧力の

形成—もちろん、その媒介としての NGO の役割は重要である—が効果的である。これまでも行ってきたことではあるが、更に効果的に情報を交換し、ある程度共通の評価基準の下で戦略を練るならば、LP に関して大きな効果を期待できる。

そのためには、まずかなり大規模な、そして全てのステークホルダーが信頼できる現状把握がそのスタートとして必要となる。おそらく、各ステークホルダーから代表を数名程度出し合って、調査および分析方法を決定し、彼ら／彼女らから委託された専門家によって実施するのが望ましい。自称「独立調査」は、他ステークホルダーから信頼を獲得することが困難であるため、あまり効果的ではない。

b. 生活手段創出プロジェクトへの信頼の構築

また、LP に関しての信頼の構築も不可欠の条件である。何度も繰り返すように、信頼関係の構築には、適切な情報の流通が不可欠であるが、現状ではそれが可能な状況にない。したがって、この点に関しても、さまざまな主体の協力が重要となる。多くの住民は、事業主体やローカルエリート、政府機関からの情報を容易に信頼しない。したがって、回り道になるが、政府機関や事業主体が日本の政府機関や JBIC 等に与える情報（この方がある程度、得られる情報に責任を付加できるため、正確な情報となる）を日本の NGO を通して住民組織に伝達させるというルートの確保も効果的である—もちろん、これは、事業主体から住民に直接情報を伝達しないという訳ではない。

加えて、事業主体による徹底した情報流通努力が求められるが、住民組織を利用した情報伝達により、パトロン・クライアント関係をベースとした情報伝達ルートも含め、全体的な透明性をも向上させることができる。

オープンな対話・討論の場も有効である。しかし、何の工夫もないオープン性は、議論の場に力関係を直接反映させることになる。さまざまな主体が安心して主張・議論を行い、質問に対して十分な回答を得られるような環境を創り出す必要がある。事業主体、ローカルエリート、住民組織、

それぞれに大きな主張のギャップが存在しているため、すぐには難しいかもしれないが、ここでは事業主体が仲介に立ち、まず個別的に頻繁な議論の場を創り出すことによって、ギャップ縮小を図っていくことも有効かもしれない。

更に、現在、信頼の大きな障害と化しているのは、主体性、責任性構築のための LP の融資方式および砂金採取の対象世帯の確定方法、砂金採取に対する金銭補償といった補償方法の問題である。どのような方法をとるにせよ、そこでは対象者に対する十分な説明、説得が不可欠となる。